いしづち

2024.1
JANUARY
No.156

公益社団法人 愛媛県建築士会
Ehime Society of Architects & Building Engineers
http://www.ehime-shikai.com

新年ご挨拶
年男・年女の抱負
バトンリレー

2024
1
JANUARY No.156

ISHIZUCHI

Ehimeken　kenchikushikai

CONTENTS

1	新年のご挨拶		愛媛県建築士会　会長　尾藤　淳一……①
2	年男・年女の抱負	年男としての抱負	四国中央支部　稲村　聡……②
		還暦を迎えて	新居浜支部　大西　竜也……②
		独立して12年	西条支部　国宇順一郎……②
		家族のこれから	今治支部　谷口　賢直……②
		毎日11ｋｍの山歩について	松山支部　永井　明高……②
		ささやかな抵抗	松山支部　横田　郁……③
		生まれ変わります。	松山支部　渡邉　道彦……③
		健康第一	伊予支部　高木　淳……③
		自分なりに	八幡浜支部　藤川　広治……③
		いままでとこれからと	西予支部　水口　優太……③
		建築士会の皆さんへお礼申し上げます	宇和島支部　田中　陽子……③
3	バトンリレー		道上壮／ＶｕＡ……④
4	道後温泉の浴槽の深さについて（後編）		一級建築士　野本　健……⑥ 文化財・まちづくり委員会　委員　花岡　直樹……⑥
5	世界建築紀行	“地獄の門”とサマルカンド･ブルーを探す旅（前編）	西予支部　松山　清……⑫
6	委員会活動報告	第65回建築士会全国大会しずおか大会に参加して	総務・企画委員会　委員長　井上　竜治……⑯
		喜木の危機、清水長三郎家について	愛媛県ヘリテージマネージャー講師　岡崎　直司……⑱
		令和５年度中四国若手建築志(士)交流会ｉｎ島根報告	青年委員会　副委員長　武智　良太……㉔
		青年委員会主催「支部対抗ソフトバレーボール大会」	
		優勝報告	西条支部　西条Ａ　河上　正也……㉕
		最下位報告	四国中央支部　遠藤　彰騎……㉖
		女性委員会主催「紙のまち建物見学会」	女性委員会　委員　加地　彩子……㉗
7	支部報告	建築士の日の行事 ～ぬりえワークショップ＆無料住宅相談会～	四国中央支部　遠藤　彰騎……㉘
		～街頭アピール団扇配り・建築クイズ・熊本被災地写真展～	八幡浜支部　安藤　嘉晃……㉘
8	けんちくの輪	建築士会での活動	松山支部　大内　雄志……㉙
		伊礼先生に魅せられて	八幡浜支部　安藤　嘉晃……㉚
9	お知らせ	第４回理事会議概要報告	事務局……㉛
		秋の褒章　黄綬褒章　石丸真智子様、尾藤淳一様	……㉜
		専攻建築士（新規・更新）登録申請受付期間のお知らせ	事務局……㉜

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。

アクリル画、キャンバス

題：「安居島（あいじま）」

［表紙画について］

安居島は、愛媛県松山市に属する有人島。2020年９月の住民基本台帳における人口は13人。
江戸時代には、周辺の海域の漁場の権利をめぐり、松山藩と広島藩とで領地争いが続いていた。交渉結果として松山藩の領地になった。
1817年に北条浅海（現在の松山市）の大内金左衛門が移住したのが村の始まりと伝えられる。島には、金左衛門の記念碑が立つ。やがて、港に船が立ち寄るようになり、江戸末期から明治にかけて大いに栄えた。（Wikipediaより）

表紙作者　上田　勇一　プロフィール

1974　東京生まれ
1980　小学校から高校まで松山在住
1990　東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
1991　愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞
（愛媛県建築士事務所協会主催）
1993　画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
1996　日本工業大学建築学科 卒業
1998　画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
2002　日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」
（新潮社）の装丁担当
2003　美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞（東京／日動画廊）
2010　愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」収蔵される
2015～17　愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
絵画教室やオリジナルブランド額工房「㈱リチェルカ」を設立
2017　「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員／審査員

新年のご挨拶

愛媛県建築士会　会長　尾藤　淳一

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。旧年中は、愛媛県建築士会の本会行事や支部活動にご協力賜り誠にありがとうございます。特に創立70周年事業では時間と資金の無いなか行いましたが、伊礼智様の記念講演会やいしづち特別号の発刊でご協力いただいた方、協賛金という形で協力を頂いた方に心よりお礼申し上げます。お陰を持ちまして、無事事業を終えることが出来て安堵しているところでございます。なお、協賛金の余剰金につきましては、次期周年事業へ積み立てさせて頂き、80周年、90周年、そして100周年へとバトンを繋いでいく所存でございますので、末永くご支援賜れば幸いです。

そもそも、私たちは公益社団法人として社会に対して公益性が求められています。これからも社会から必要とされる活動とは何かを追及していきます。

現在の世の中は、新人世といわれています。これは21世紀に入ってから新たに提唱されている「人類の時代」という意味の地質学の新しい時代区分です。人類が産業革命などを通じて地球規模の環境変化をもたらした影響に注目して提案され、SDGsが提起する人類社会の将来展望とも深く関わっています。地球誕生から46億年に対して、産業革命からは250年ほどしか経っていませんが、この250年で地球環境は大きく変わりつつあります。果たして我々人類は地球の覇者なのか、それとも破壊者なのか。もしも人類が滅んだ後、地球を支配する生物から、後者の方で呼ばれないためにも、私たちは行動を変えていかなくてはなりません。

時に建築士会連合会では、建築士会SDGs宣言を提唱しました。本来目指すべきは、持続可能な社会です。しかしながらエネルギーやプラスチックなどの素材に関しては解決の目途はなく、各地で起きている紛争は増えるばかり、様々な多様性は混乱するばかりです。このような混沌とした世の中ではありますが、出来ることを一歩ずつやっていく他ありません。ただ自然を愛し、社会のつながりを大切にし、他人を尊重する気持ちを貫けば、我々は変わっていけると思います。

さて、令和5年度も残すところ3ヶ月となりました。新しい令和6年度はどういう活動をしていく年にしていくか。今建築士会は、高齢化と少子化によって会員数の減少が続いています。他県の活動を参考に見ると、会社を定年で退職した会員を中心にシニヤクラブを作って、定例会や見学会を行っていて、有意義に機能しているみたいなので、愛媛県でも立ち上げたいと思います。また青年委員会や女性委員会は活動が多くて大変という声もありますが、仲間意識が芽生えれば、事業もまた楽しみに変わると思いますので、息抜きのレクリエーションも取り入れてみてはどうかと思います。例えば、東・中・南予交代で担当して、其々の景勝地に家族で行くとか美味しいもの巡りするとか、事業費からの捻出は難しいですが、楽しい一日を過ごせると思います。そんな楽しい経験があると、建築士会が楽しくなり、入会したい人も増えるのではないかと思います。大切なことは会員一人一人が輝くことではないかと思います。是非取り組んでいただきたいと思います。

建築士会の社会的な活動に、文化財・まちづくりと教育・事業があります。建築文化財や建築士教育は、建築士会でなくてはできないことですので、しっかりと活動していきたいと思います。文化財の調査・保護啓蒙・ヘリテージマネージャー育成、木造住宅耐震・応急危険度判定技術者・浸水被害住宅など研鑽を積んで、社会に貢献できる人材を育成していく必要があります。またその活動をしっかりＰＲしていくことも必要で、情報・広報活動として、会報誌・ホームページによる発信を続けていきます。それに加えて、適切なＳＮＳを利用した発信を模索していきたいと考えていますが、公益法人にふさわしい発信の在り方について、慎重に議論を深めたいと思います。社会に貢献できるよう、これらの活動に引き続き力を入れていきたいと思います。

一方、愛媛県建築士会が健全な経営が出来る様、総務・企画を中心として、運営方針を協議していきます。建築士会の本来の趣旨は、過去にも申し上げましたが、資格があるものが全て入会することを前提としておりますが、現在はそうなっておりません。また資格者の定期講習も所属建築士しか対象になっていません。従って所属建築士以外の資格者は、生存すら不明な状態であるので、この辺りは改革をする必要があります。定期講習の在り方を改革して、すべての資格者の受講を求めるようにするべきであります。他団体との意見調整もありますが、連合会を通じて粘り強く要望していきます。

最後になりましたが、令和6年（2024年）が皆様にとりまして、良い年になりますことを祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。本年もどうぞよろしくお願いします。

年男・年女の抱負

年男としての抱負

四国中央支部　稲村　聡

新年、あけましておめでとうございます。私の抱負としましては以下のようになります。

「夢なき者に成功なし」ｂｙ　吉田松陰

偉人の言葉ですが、夢に向かって計画・実行と少しずつ歩んでいきたいです。今年一年この抱負を胸に刻んで活動してまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

還暦を迎えて

新居浜支部　大西　竜也

還暦を迎えるにあたり、本当に自分が還暦なのかとまだ実感が湧かないのが実情です。60年という時間があっという間に過ぎ去ったように思います。建設業の世界に入ったのは26歳の時でした。当時建築に関しては全く知識がなく職人さんと喧嘩になったりしたこともありましたが、多くの皆さんに育てていただきここまで続けてこられたことに今は只々感謝しております。これまで仕事一筋で頑張ってきましたが、60歳を機にこれからは何か違った目標を見つけられたらと思っております。

独立して12年

西条支部　国宇　順一郎

新年明けましておめでとうございます。

今年は辰年、年男です。この話がきた時12年前にも書いた事を思い出しました。それと自分で設計事務所を始めた年でもありました。この12年を振り返って沢山の方と知り合いお声をかけていただき、今も仕事をできている事が有難いです。コロナの影響から建築業界も大きく変わっていく中、今までのご縁の方達、これからご縁をいただく方達の為になるようなサポートをして、その日を大切に仕事を進めていきたいと思っています。

あと、健康でないと何もできません。健康一番です。今年もよろしくお願いいたします。

家族のこれから

今治支部　谷口　賢直

新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎え自分には３人の娘がおりますが、いよいよ一番下の娘が高校を卒業して、新たな道へ進みます。それと同じくして、夫婦二人生活が始まります。今までは子供という共通の話題があったので会話が成り立っていたところもあって話していたような気がしますが、これからは二人になります。個人的には近年、マラソンやサイクリングはしておりますが、妻とはなかなか共通の趣味と呼べるものはありませんでした。ただ去年の７月一緒に富士山を登ったのをきっかけに、色々と共通の話題が出来ました。今後はもちろん仕事も大事ですが、嫁さん孝行、それぞれ県外に行っている家族とも今まで出来なかった分、旅行に行ったり、同じ時を過ごせる時間を大事にして家族の絆を深めていきたいと考えています。

毎日１１ｋｍの山歩について

松山支部　永井　明高

上高地へ行き涸沢カールにテントを張り北穂高岳へ登頂した時、頂上で愛知県の千利休に会いお茶を点ててもらいました。その茶碗は人間国宝 鈴木藏氏の志野陶芸作品で、頂上の北穂高岳小屋テラスから槍ヶ岳や大キレットを望みながら頂いたお茶の味は人生最高のご褒美でありました。

60歳から毎日朝と夕方に山歩をして11kmを日課としています。今年72歳になり地球１周の４万kmは達成しておりますが、地球3周は達成したいと思っております。

ささやかな抵抗

松山支部　横田　郁

今年２月で48歳となります。同世代の人との会話に「老眼」という単語が多くなり、私も最近小さい文字が二重に見えるようになりました。ある時、先輩の眼鏡をかけさせてもらうと文字がくっきり見えるので、その方はニヤニヤしながら「それ老眼鏡。横田君、老眼だね！」とのこと。しかし、あくまでも「乱視」だと自分に言い聞かせ、しばらくはその事実に抗っていこうと思います。

生まれ変わります。

松山支部　渡邉　道彦

せっかく生まれ変われる歳になったので、60年分の計にふさわしい抱負として、食う為に働く事から、本当の自分は何をする為に生まれて来たのか？自分らしさを知ることから始めたいと思います。WGIP政策にて失いかけている日本人としての誇りと自信を取り戻し、たとえ見た目は老いても心の中の情熱は絶やさすことなく、今どきの６０歳は何をしでかすかわからないんだぞ、と周囲を騒つかせる、常に青春を自負出来る男に俺はなる！

健康第一

伊予支部　高木　淳

この原稿のお話をいただくまで、自分が年男であることをすっかり忘れておりました。あっという間の12年でした。その間で大きく変わったことは独立したことでしょうか。いろいろありましたが、なんとかやってこられたのは健康であったからでしょう。とは言え五十路を前にして、あちこち衰えてきている自覚はあり、体が資本であることを日々思い知らされます。ありきたりではありますが、これから還暦までの12年、健康第一をモットーに過ごしていきたいと思います。

自分なりに

八幡浜支部　藤川　広治

もうすぐ還暦をむかえます。私の同級生で、公務員や会社員の多数が定年退職を迎えるかと思います。立場上、定年のない私は、彼らが少し羨ましく思う反面、還暦を迎えても現役で頑張れることは、幸せなのかもしれません。しかし、人生のゴールに近づいているのは確実で逃げることはできません。自分なりの定年退職を考えていきたいと思います。後で後悔したくないですからね。

いままでとこれからと

西予支部　水口　優太

今年で３度目の年男を迎えることになりました、今回の依頼があり、改めて前回の年男からの12年を振り返ったところ、昨年手放したバイクがちょうど前回の年男の時に購入していたことを思い出しました。長年連れ添った相棒でしたが、生活環境や時間の使い方も変化したため、次のオーナーに託すことになりました。12年前の自分から見ると、職場も住むところも趣味も、たくさんのことが変わって今に至りますが、これからもいろいろなものに挑戦して、いい方向に変化していきたいと思います。

建築士会の皆さんへお礼申し上げます

宇和島支部　田中　陽子

日々目の前の階段を登ることに必死になっているうちに、気づけば年女という年齢を迎えてしまいました。私の交友関係はほぼ建築士会といっても過言ではないほど、愛媛県建築士会の皆さんに支えられています。女性委員会や支部活動に参加する中で経験すること、勉強会で得られる知識、どれも私の肥やしになっています。初心を忘れずこれからも走り続けたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

バトンリレー

道上壯／VuA

「すべてはバトンリレーだ」僕は、そう信じている。
建築は、様々な生業の中でも、その傾向が顕著な一つだと思っている。

Complex_GM

僕が師事した設計者は二人いる。一人は京都の高松伸で、もう一人は東京の宮崎浩だ。

高松伸は、川崎清に師事していた。辿ってゆくと僕から２親等も遡ることができる。宮崎浩は、槇文彦に師事し、槇文彦は丹下健三に師事し、丹下健三は前川國男に師事し、前川國男はル・コルビュジェに師事し、ル・コルビュジェはオーギュスト・ペレとペーター・ベーレンスに師事していた。辿ってゆくと僕から６親等も遡ることができる。

僕は決して著名な設計者ではないが、僕の建築に対する考え方の細部には、前述の人たちの考え方が潜んでいると思っている。コピー＆ペーストのように、まるっきりそのままではないが、途中の誰かが取捨選択した何かが、まるでバトンリレーのように、連綿と僕に伝わっているはずなのだ。

リレーで、バトンの受け渡しを行わなければならないエリアを「テイク・オーバー・ゾーン」という。400mリレーの場合、テイク・オーバー・ゾーンは30mになる。この30mの間は、二人の走者が前後で一緒に走ることになる。呼吸を合わせ、足並みを揃え、手の振りを合わせ、後者から前者へとスピードを落とすことなくバトンを渡す。リレーは一人あたり100mを走るが、自分ひとりだけで走るのは、実質70～85m程度で、４分の１程度は誰かと一緒に走ることになる。

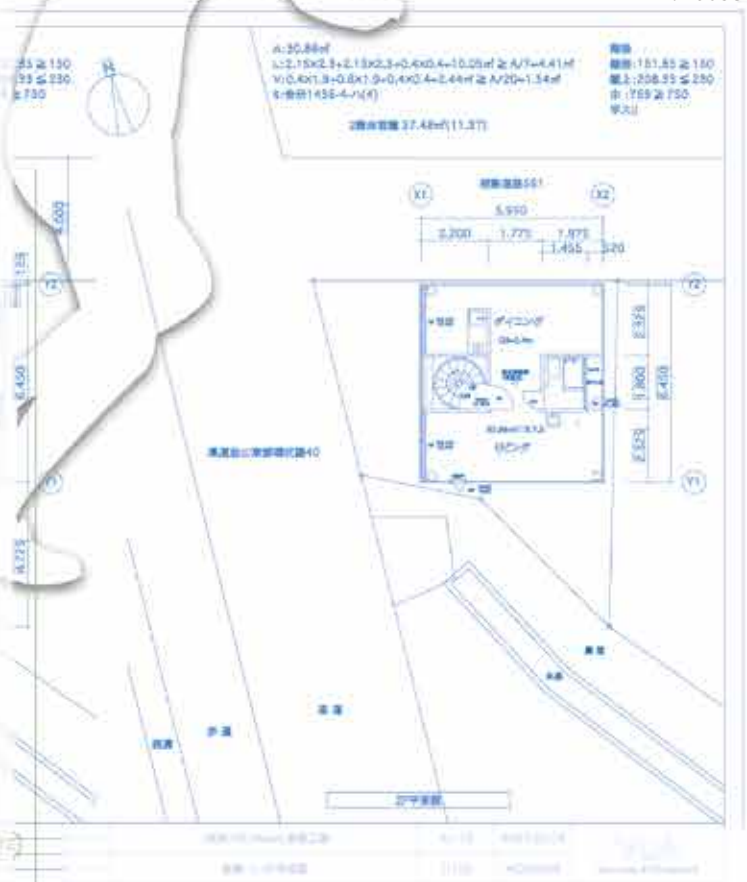
リレーの走者は、必ずバトンをもらい、そして必ずバトンを渡す。自分一人で走る走力も大切だが、バトンパスの技術はもっと大切になる。受け取る上手さと、一人で走る速さと、手渡す上手さが相まって、リレーはチームとして上手くなり速くなってゆく。３つの上手さ×４人＝チーム力。これがリレーの醍醐味だ。

僕は数年間ずつ、二人の設計者からバトンを受け取るべくテイク・オーバー・ゾーンを走った。上手く受け取れたかどうか定かではないが、異なる二人からのバトンを受け取った僕は、ミックスもしくはハイブリッドと言えるだろう。元のバトンそのままではないが、僕なりの解釈を加えた新しいバトン。取捨選択され合体しながらも、最初から変わらず手渡されてきた何かがあるバトン。僕は今、テイク・オーバー・ゾーンを走りながら、次の走者にバトンを手渡しつつある。

僕は、専門学校と大学と資格学校で教鞭を取っている。それぞれで手渡すバトンに違いはあるが、共通する部分もある。専門学校では、建築の楽しさや大変さなど、興味を持ってもらうことと合わせて、山あり谷ありの生業であることを伝えている。大学では、建築を取り巻く世界の広さや奥深さを、マクロにミクロに歴史や現状を踏まえて伝えている。資格学校では、建築士に求められる知識や技能に加えて、建築士であることの社会的意義や使命を伝えている。どの学校でも伝えていることは、建築の光と汗についてだ。

Baton relay

HK.House



僕の手掛けた住宅は繋がっている。そう、まるでバトンリレーのように。

まだ実作がなかった頃、コンペ案として考えたＣｏｍｐｌｅｘ＿GMをＷｅｂにアップしたところ、それを見た人から住宅の設計依頼の連絡を頂き、ＨＫ．Ｈｏｕｓｅが実現した。ＨＫ．Ｈｏｕｓｅの竣工写真をＷｅｂにアップしたところ、ＹＭ．Ｈｏｕｓｅのクライアントの目に留まり、ＹＭ．Ｈｏｕｓｅの竣工写真をＷｅｂにアップしたところ、ＳＩ．Ｈｏｕｓｅのクライアントの目に留まり、ＳＩ．Ｈｏｕｓｅの竣工写真をＷｅｂにアップしたところ、ＴＩ．Ｈｏｕｓｅのクライアントの目に留まり…と、竣工した作品が次の建築へと繋がってくれたことがあった。

この時、バトンリレーのようだと思ったのは、最新の作品が、タイミング良くその次の作品に繋がるきっかけになっていたことだ。昔の古い作品を見て設計を依頼されていたり、竣工後に月日が経ってから設計を依頼されていたら、きっとバトンリレーのようだとは思わなかっただろう。次々とバトンパスして前へ進むリレーのように、僕の住宅は、作風を変えながらも何かがしっかりと伝わっていったのだ。

誰かに学んでいる時は、テイク・オーバー・ゾーンでバトンを受け取りながら走っている時だ。自分でできるようになった時は、レーンを一人で走っている時だ。誰かに伝えている時は、テイク・オーバー・ゾーンでバトンを手渡している時だ。今のあなたは、どこを走っているだろうか？そして、自分の走り方を意識しているだろうか？３つの走り方が出来てこそ、リレーランナーに相応しいと言えるだろう。

バトンリレーは、いつ始まったのかも分からないし、いつ終わるのかも分からない。誰から始まったのかも分からないし、誰で終わるのかも分からない。どんなバトンを渡されるのかも分からないし、どんなバトンを渡すのかも分からない。ゴールして順位が分かるまでは、はっきりした評価も分からない。ただ、自分の区間だけのちょっとした結果が分かるだけだ。

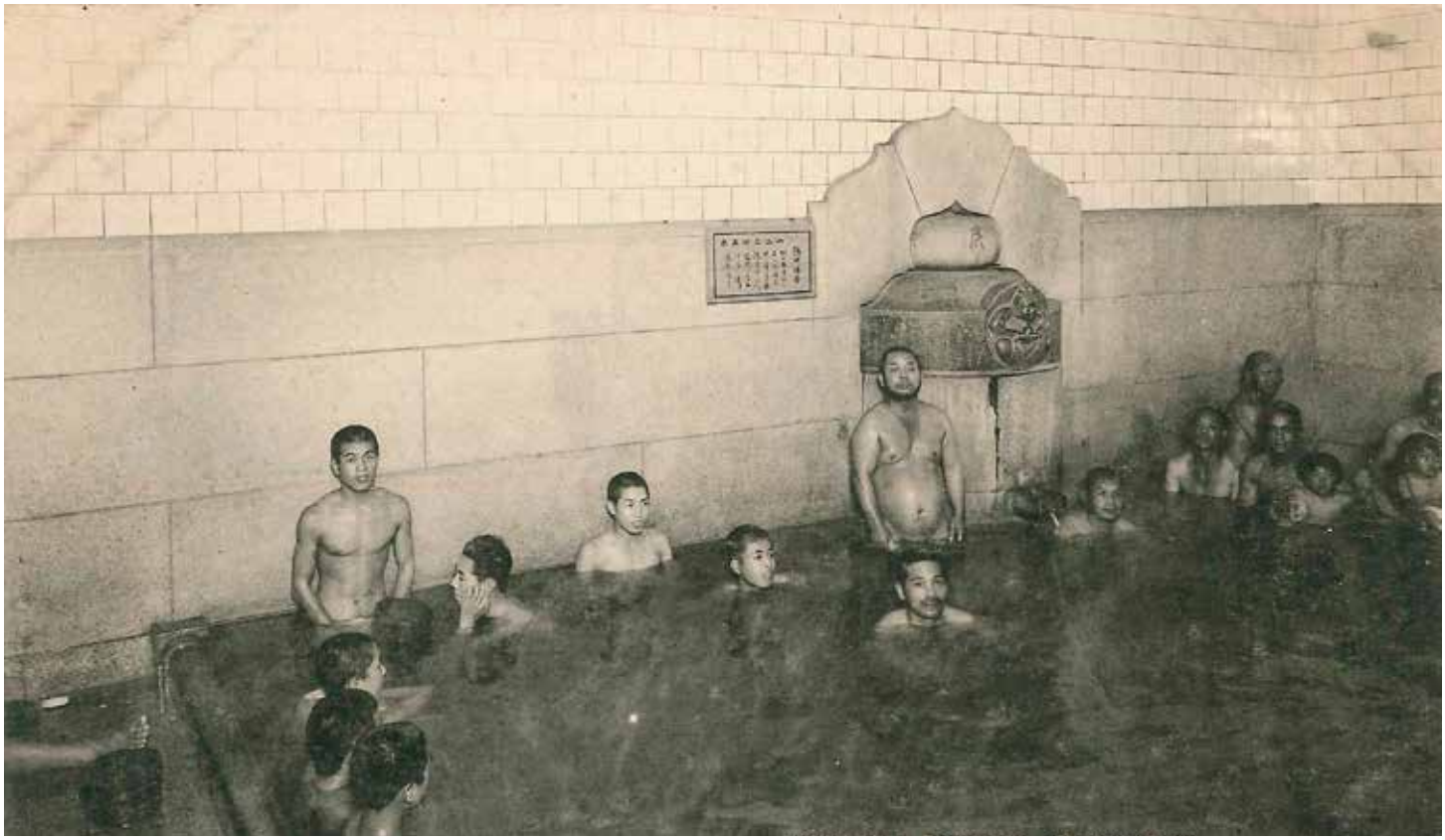
こんな書き方をすると、頑張り甲斐がないように思えるかもしれないが、僕は逆に、色々なことを妄想して楽しんでいる。いつか、ウサイン・ボルトのようなヤツが、とてつもない速さで他をブッちぎるかもしれない。ひょっとしたら、自分と同じようなヤツが、額に汗して必死で何とか次に繋ぐかもしれない。とにかく先のことは皆目見当もつかないが、それでも、いつかの誰かのために、今を全力で走ろう。そうたった一つのバトンを渡すために。

THE HISTORY OF DOGO ONSEN
DEPTH of the BATHTUB

道後温泉の浴槽の深さについて

執筆：　一級建築士　野本　健
監修：文化財・まちづくり委員会　委員　花岡　直樹

後編

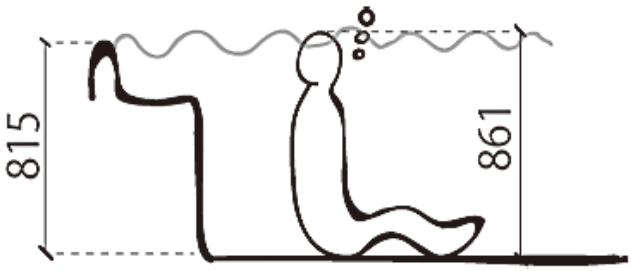


▲道後温泉本館　養生湯（大正時代）

養生湯：大正13年（1924）

大正13年（1924）に明治25年に建設された養生湯の改築工事を行った。設計は平源右衛門で、この時に浴槽は溢れ式に変わった。道後温泉本館保存修理工事で養生湯源泉跡を発見したことで、当時の浴槽の深さを花岡先生が算出している。その深さは815mmである。

当時の男女の座面から肩までの高さは明治時代に比べ約20～30mmしか変わっていないものの、浴槽の深さがこの時期に一気に深くなり、頭の先まで迫ってくる深さとなっている。



大正時代		
性　別	身　長	座面から肩まで
男	1624	633
女	1509	588

（単位：mm）

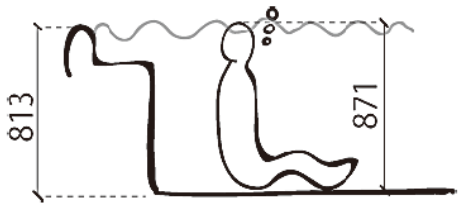
道後温泉の浴槽の深さについて

神の湯：昭和10年（1935）

昭和10年（1935）に一ノ湯、二ノ湯、三ノ湯の3つあった浴室を2つに変え、神の湯本館も曳移転し、拡張工事を行った。その際、浴槽も溢れ式に変わった。その時の改築工事の図面によれば2.6尺であった。

2.6尺は787mmであり、今回の保存修理工事で浴槽の寸法を実測した結果、約813mmであったことがわかった。大正13年の養生湯の浴槽の深さとほぼ変わらない寸法となっていることが読み取れる。

▲神の湯東浴室



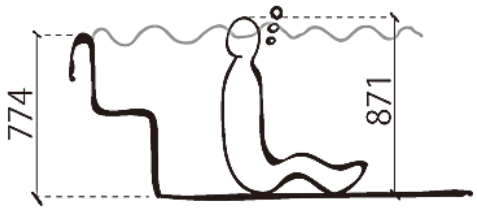
昭和時代（前期）		
性　別	身　長	座面から肩まで
男	1645	641
女	1527	595

（単位：mm）

霊の湯：昭和15年（1940）

昭和15年（1940）に霊の湯浴室も溢れ式に変える改築工事を行った。昭和61年に浴室を鉄筋コンクリート造に改築する工事を行っているが、浴槽の深さは変わっていない。今回の保存修理工事で浴槽の寸法を実測した結果、約774mmであった。道後温泉本館の浴室の中で一番浅い浴槽の深さであるものの、目元まで迫ってくる寸法が読み取れる。

▲霊の湯男子浴室



昭和時代（前期）		
性　別	身　長	座面から肩まで
男	1645	641
女	1527	598

（単位：mm）

道後温泉の浴槽の深さについて

神の湯女子浴室：昭和29年（1954）

昭和29年（1954）に男女に仕切られて使用されていた養生湯を１つの女子浴室にする改築工事を行った。保存修理工事の実測の結果、浴槽の深さは834mmであり、道後温泉本館の浴室の中で一番深い寸法となっていることが読み取れる。（※女子のみの入浴であるため女性の平均身長を採用している）

▲神の湯女子浴室

昭和時代（後期）		
性　別	身　長	座面から肩まで
男	1664	648
女	1547	603

（単位：mm）

各浴室の浴槽の深さの比較

年　代	当時の浴室	お湯の深さ
寛永15年（1638）	一ノ湯、二ノ湯、三ノ湯	606
明治27年（1894）	一ノ湯	681
大正13年（1924）	養生湯	815
昭和10年（1935）	神の湯東西浴室	813
昭和15年（1940）	霊の湯浴室	774
昭和29年（1954）	神の湯女子浴室	834

（単位：mm）

大正13年(1924)養生湯との比較		
お湯の深さ	性　別	座面から肩まで
815	男	779
	女	724

（単位：mm）

次に各浴室の深さをまとめた。現代の浴槽の深さは500mmが一般的である。そのため、各年代の浴槽の深さは通常よりも深いことがわかる。

寛永15年（1638）、明治27年（1894）のお湯の深さは当時の人体の寸法より肩まで浸かることを想定した寸法であり一定の妥当性のある寸法である。

しかし、大正13年（1924）の養生湯改築時

には一気に134mm深くなっていることがわかり、人体の寸法においても目を覆うような深さとなっていることから、かなり乖離のある寸法となっている。

その後も平均して810mmを超える設計寸法を採用していることから（霊の湯を除く）、大正時代以降に設計した浴槽の寸法の深さは意図的であり、その時の設計寸法が道後温泉における浴槽の深さの標準寸法になったことが読み取れる。

各時代における浴室の考え方

各時代において道後温泉についてどのように考えていたかいくつか文献の文章を引用する。

○大正時代の海南新聞「古茂田譲町長談」

（養生湯の浴室について）

「霊の湯や一の湯に「流し」を設けていたのは大正７年頃の事だが然し洗湯が狭隘なため夕方など入浴者が多い時には「流し」が入ると随分混雑するため客に対し不快な感じを与えるから目下中止しているのであって、無意味に之を廃止したのではない」

○昭和9年（1939）道後新聞

（神の湯東西浴室について）

「現代のやうに石段を数段降りこんで洗湯を汲むのは不便であり、又不潔であるので、これを改め、浴槽は養生湯や鷺湯のやうな溢れ式にする。そして深さを深くして湯量を多量にたたえる。」

上記の文章から見えてくることは、洗い湯が非常に重要な問題であったことがわかる。資料によると昭和49年頃（1974）に洗い場にカラン（洗い場の蛇口）が設置されたため、建設当時の各浴室にはカランが設置されていなかった。（カランは蛇口の意味でオランダ語の「鶴」を意味するkraanから来ているそうだ）そのため当時は浴槽からお湯を汲み取り、洗湯に使用するのが通常の使用方法であった。

このことから各浴室の浴槽のお湯は温泉に浸かる目的だけでなく、洗い湯にも使用する目的であったことがわかってくる。

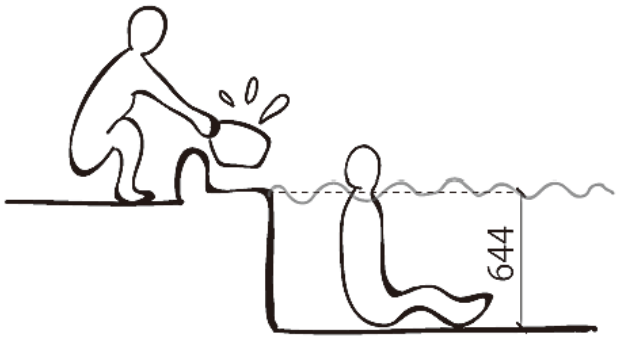
道後温泉の入浴客数は明治43年には71万人、大正13年には123万人と多くの観光客や地元の人々が訪れる場所となっており、当時の文献から洗い場は混雑を極めていたことが想像できる。

洗い場にいる多くの人々が身体を洗う目的で洗い湯を汲むと多くの湯量が失われることになる。そのため、通常の座面から肩まで湯に浸かることを目的とした設計寸法で考えてしまうと、洗い湯で湯量を失い、肩まで浸かることができなくなってしまう。温泉に来て肩まで浸かれないのは大きな問題である。

『このため、道後温泉の浴槽の深さは洗い湯で失われる湯量を想定した設計寸法であることが読み取れてくる。』

洗い湯を想定した設計寸法であれば、多くの謎が解けてくる。

道後温泉の浴槽の深さについて



【神の湯東西浴室の理想】

「霊の湯」は入浴客が「神の湯」や「養生湯」と比べ少ないため、約130mmの湯量が失われることを想定しており、「神の湯東西浴室」や「養生湯」は入浴客数が多いため約170～180mmの湯量が失われることを想定していた。「神の湯女子浴室」は約230mmと女性の洗髪等で男性よりも多くの湯量が失われることを想定していたことが読み取れてくる。

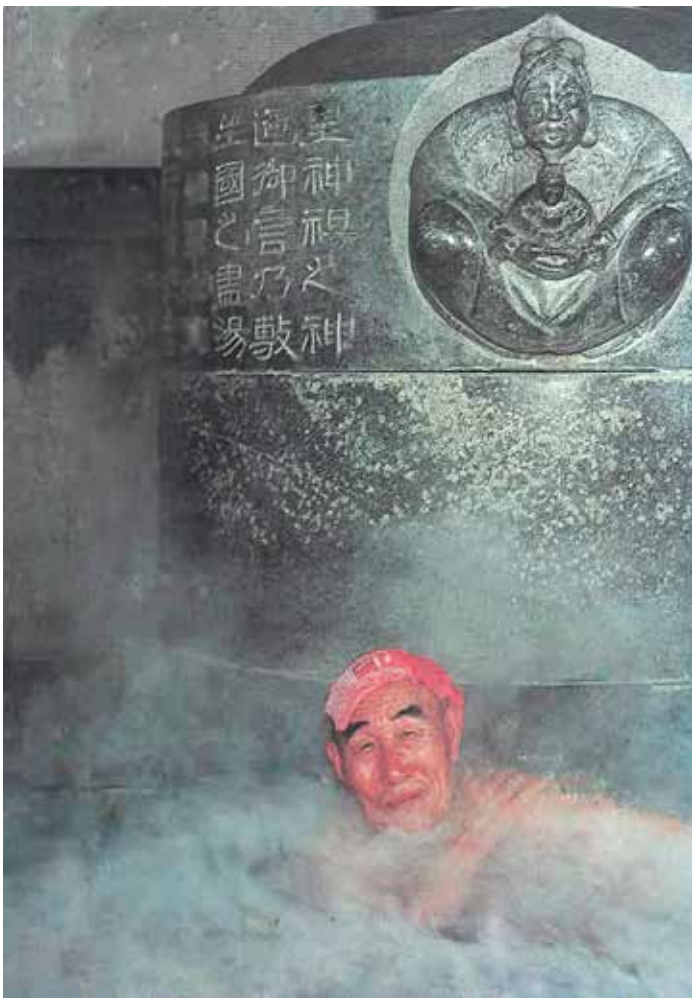
現代では洗い場にカランが設置されているため、浴槽からお湯を汲むことがなくなり、湯量は減ることがなくなった。そのため、当初想定していた寸法と異なる結果となり、現代では道後温泉の浴槽は深いと感じるようになったものと考察できる。

現代でも深いと感じる寸法は当時の人々の身長が低かったことを考慮するとそれ以上に深い寸法となる。洗い湯で失われることを考慮した寸法であれば、それぞれの浴槽の深さに関する一定の妥当性を示すことができるものと考えられる。

こぼれ話

道後温泉のお湯を出す湯釜は道後温泉でしか見られない特徴的な造形物である。昭和46年に話題となった富田狸通氏が写る観光ポスターは湯釜の湯口から落ちる温泉を肩に当てる道後の伝統的な入浴スタイルを表現している。地元の人々は肩に湯を当てるため、浴槽周りにずらっと立ち並んでいるのが道後温泉にとって日常の光景であった。

明治期の伊佐庭如矢町長時代、湯釜は地元の人々にとって神仏に近い扱いをされていたため「湯口を肩の高さに合わせるため、湯釜の高さを調整する」と言い、湯釜に触れることに対する地元の声を



▲昭和46年の道後温泉観光ポスター

押さえる理由として使用したり、また古写真からもその伝統的な入浴スタイルを見ることができる。

重要文化財に登録されて以降、地元の人々は「道後温泉本館」ではなく、「椿の湯」を利用するようになっている。このような地元ならではの光景が道後温泉本館から失われていくことは少し、寂しい気持ちになるものである。

■あとがき

「何で道後温泉の浴槽はあんなに深いん？」その問いかけに私は答えることができなかった。道後温泉の浴槽は他の温泉施設よりもかなり深い。私自身入浴して同様の疑問を持ったが、答えてくれる人はいなかった。

道後温泉本館は修理前、道後温泉本館をぐるりと一周するほど列をなす人気の観光施設であった。そのため、立って入浴するという考えも一理あるものの温泉施設で座って肩まで入れないのはいささか不思議な話であり、私の胸の中でその疑問は燻り続けていた。

道後温泉本館保存修理工事では修理前の寸法を測るなどの実測調査が必須で、この時期になると大体の実測値が集まってきたため、これを機に過去の人体寸法と照らし合わせることで、寸法のロマンを追い求めようと考えた次第であった。

「洗い湯と浸かるためのお湯の湯量を確保するため、道後温泉の浴槽は深い」。個人的にはしっくりくる回答を導き出すことができ、一安心した。この溢れ式の浴槽の寸法は大正時代の玄関棟と南棟を設計した「平源右衛門」が生み出し、後の道後温泉の浴槽の全ての寸法において採用されていることから、偉大な建築家であったことも読み取れてくる。

この回答は人体の寸法や私が掻き集めた資料から考察した内容である。今回記述はしていないが、江戸時代（前期）の男性の平均身長は1555mm、現代では1714mmと159mm高くなっている。座高に関しては90mm高くなっており、当時の人が現在の道後温泉に浸かれば、かなり深く感じるものと考えられる。

あくまでも座高とはピンと背筋を伸ばした寸法であり、入浴する際にそのような綺麗な姿勢で入浴する人は少ないものと考えられ、新たな資料が出てきて私の回答は一笑に付すものとなるかもしれない。

未来の人間によって追記・修正がなされることを期待し、新たな浴槽の深さの見解が出てくることを願い筆を置く。

■参考文献

「住まいの解剖図鑑」
「日本人のからだ　健康・身体データ集」
「AIST 人体寸法データベース1991-92 解説書」
「道後温泉 増補版」
「海南新聞」
「道後新聞」

＊本書掲載の文章・図版の無断複製・転載を禁じます。

世界建築紀行 vol.23

“地獄の門”とサマルカンド・ブルーを探す旅・前編

西予支部 松山　清

1 未知なる中央アジア

▲闇に燃える“地獄の門”（トルクメニスタン）

“地獄の門”とサマルカンドは中央アジアにあると朧気ながら認識していた。インド北西部のアフガニスタンと中国西側の辺りからカスピ海までのエリアが中央アジアで、ソ連時代にはトルキスタンと呼ばれていた。ソ連崩壊後カザフスタン・ウズベキスタン・トルクメニスタン・タジキスタン・キルギスが独立し、それぞれの国が発展を続けている。その中でもシルクロードのオアシス都市が多くあるウズベキスタンは、イスラム世界の中心地として繁栄を続け、今日でも「青の都」と呼ばれる多くの美しい建築群が残されている。一方、地獄の門はウズベキスタンの西に隣接するトルクメニスタンにあり、ヒヴァから国境を越えて入国して行かなければならなかったが、それはとても大変な試練だった。

2023年４月27日に旧知の友と２人で出発したが、現地で福岡の男性Ｔ氏が加わり３人の旅となった。さらに国境越えには東京の女性Ｍさんと合流してトルクメニスタンに入国して欲しい、ということで、地獄の門へは４人で向かうことになった。しかしこんな辺境を一人で旅するなんてＭさんの度胸に敬意を表したい。ウズベキスタンの首都タシケントまでは日本からの直行便が手配できず、仁川からアシアナ航空を利用した。タシケント空港でＴ氏と合流し、翌日トルクメニスタン国境を越え、地獄の門を目指した。

▲宣伝村を望む統一展望台

▲臨津閣公園の少女像

▲ウズベキスタン航空搭乗

▲ヌクス空港到着

2 ウズベキスタンとトルクメニスタンの国境越え

あまり往来のないウズベキスタンへのルートは、アシアナ航空の仁川－タシケント路線にＡＮＡマイレージが使え、倹約のため松山から伊丹、福岡と国内線を乗り継いで仁川空港へと辿り着いた。空港内にあるトランジットホテルに宿泊し、翌日は臨津江（イムジン川）と漢江（ハンガン）の合流部にある統一展望台と臨津閣（イムジンガク）公園など北朝鮮との国境エリアを無料トランジットツアーで巡った。展望台から川越しに見える“宣伝村”はいつもの風景だったが、臨津閣公園には二つの少女像が置かれていて、事情を知ってか知らずかその隣に座って柔やかに記念写真を撮るヨーロッパからの観光客に、日本人として多少なりの違和感を覚えたのだった。

午後４時半仁川空港を離陸しタシケントに午後８時半到着、時差が４時間あるため８時間のフライトだ。この日はホテルへ直行、両替などをしてウズベキスタンの旅に備える。４月29日、地獄の門があるダルバサへ向かうため朝7：15発ヌクス行きの飛行機に乗り、西部の国境近くまで行く。ホテルを午前５時に出発。朝食の弁当があると夕べのドライバーから聞いていたが、実は前夜に自分でホテルに頼んでテイクアウトせよという案内だった。そのため朝食抜きとなる。ヌクス行きの便は、搭乗時刻は定刻だったのに中々離陸しない。その理由が「予定したスタッフがやってこないため」などというノンビリした話で、１時間程遅延してテイクオフ。機内サービスもジュースやお絞りが配られた人、何ももらわない人などマチマチで、日本の航空会社が標準というわけではない。意外といい加減な、初搭乗のウズベキスタン航空だった。

このウズベキスタン航空、ヌクスが最終目的地では

▲出迎えの人たち

▲ウズベキスタン側国境

▲通関待ちのトラック

▲トルクメニスタン側国境

なく経由地だったため、降機するときに何度もチェックがありやかましい。ヌクス国際空港はとても小さな空港だった。空港ビルから百メートルくらい離れたところに柵があり、ドライバーはそこで我々を待っていた。英語が話せないためなのか、殆ど会話をすることなく、彼は我々を国境まで真新しいヒュンダイ製のワゴン車で連れて行ってくれ、検問所の門の前で下ろされた。本当はここでMさんと合流する予定だったが、我々３人の飛行機が大きく遅れたため彼女は一人で国境を越えたらしい。

難関と言われるトルクメニスタンへの入国。まずウズベキスタン側で何度もパスポートのチェックがあり、手荷物検査があって検問所を抜けた。150mくらい歩いて門を開けてもらい中立地帯のような所へ出る。そこでもう一度パスポートのチェックがあり、トルクメニスタンの検問所までの連絡バスを30分以上待った。強い陽差しが照りつける中、ひたすら耐えた。その後数人の越境の現地人がやって来た頃に、やっと迎えのオンボロバスがやって来る。それに乗り込んで800m先のトルクメニスタンの検問所まで行き、そこで手続きの複雑な入国審査を受けた。まずはＰＣＲ検査から。Express Testと係員に告げるよう言われていたので、そう言って麺棒を鼻の穴に詰め込む。検査はあっという間に終わったのだが、結果はどうだったか伝えられなかった。きっと義務的にやっているだけなのかと理解した。

そのコロナ検査の代金＄33を支払いに窓口に行くと、まず入国審査を受けるように指示される。入国審査の窓口に行くとガイドは誰か、とか、電話番号はなどとこれまで聞いていなかった質問を受けた。どうしようか迷っていると、「ガイドを連れて来い」という注文が付けられ、我々３人は途方に暮れた。そこで１時間程まっていると、英語を話す唯一の若い兵士がガイドを連れてきてくれて、やっと手続きに入る。青のボールペンで書かないと書類は受け付けられない、というのだが、普通持っているのは黒インクのボールペン。青のものをガイドがどこからか借りてきて、３人がやっとのことで税関申告書類を書き上げた。その書類の文字は殆どロシア語で書かれていて、自分たちの能力ではちょっと書き切ることができないものだった。たくさんの書類にサインをし＄８０の料金を支払ってやっとビザが発行された。入国には時間がかかると聞いていたが、これ程までに複雑で難しい入国審査はしたことがない。結局、予定よりも３時間程遅れてしまい、この日の観光は翌日に回された。

3 地獄の門への旅

トルクメニスタンの国境を超えたところでMさんと合流。２台の車で地獄の門を目指す。途中タシャウス市内で昼食を食べたが、その後はひたすら５時間ぐらいのドライブ。市内近郊は道路も舗装されているが、町外れからはほとんど道路設備も無く、舗装も穴ぼこだらけとなる。その穴ぼこを避けながら蛇行運転で車は飛ばす。周りの景色はというと、平坦に波打った砂漠で樹木は全くなく所々背の低いブッシュが生えて、それが地平線まで続いている。360度地平線。岩とかも転がっているわけではなくて、部分的に砂の集まったところがあり、砂塵が風によって舞上げられていた。薄雲のように見えるが、実は砂塵がいつも空中を舞っているのであった。

途中、平行して建設中のダートを走ったり、もとの道に戻ったりして、２本の道路を行ったり来たり車線を変えながら、しかも穴ぼこを避けて走る。「よくもそんなに猛スピードで穴ボコを発見できるな」、とも思われた。道路は地獄の門が近づくに連れどんどん悪路となって行き、その激しい揺れの中でのドライブが４時間近く続いた。その間、何故か深い睡魔に襲われ、何度となく車の後席で居眠りをすることとなった。

気分良くウトウトしているのに、急に車の速度が落ちる。それまではダートコースでも120km/hくらいの猛スピードで走っていたのだが、この道は時折大型トレーラーが行き交うのである。野生の駱駝も歩いていたりもする。ソ連時代アフガニスタン侵攻のため国境へ物資を運ぶ目的で軍隊が造った道路で、アスファルト舗装も陳腐で粗雑。穴が空いても修理がされていない。将来４車線のハイウェイとなるのだろうが、今のところ全く工事が進むような気配は無いのだ。これはトルクメニスタンの国力を示しているのか、この辺りの社会的インフラ整備は圧倒的に遅れていた。その道路にはガードレールはおろか、照明も看板も一切無かった。そのためドライバーは好きなように勝手気ままに走るのであった。

速度を落として車は左折したのだか右折したのだがよくわからなかったが、とても細い道に入っていった。そこから地獄の門まで９kmの看板があった。も

▲地獄の門に到着

▲朝の地獄の門

うあとわずか。心が躍り眠気も吹っ飛んだ。周囲の雰囲気は、道は無く砂漠の中を好き勝手に走っているような感じ。しばらく2台でレース走りをしたあと、突然に大地にぽっかりと穴を開けたクレーターとその中に燃えたぎる炎が目に飛び込む。感激、というか、思わず言葉を発してしまった。それはあまりにも突然だった。辺りはすでに暗闇となっていて、クレーターの中の炎だけしか明かりが無い。横に車を止めて下車すると、熱風が吹き付けてきた。言葉に出せない感動。

直径は百メートル程あるような地面にぽっかり空いた深さ20m程の穴。その中心部から大きな炎が上がり、断崖絶壁の地層の間からガス道を伝わってきた可燃性のガスが至る所で燃えている。漆黒の闇の中でそこだけが明るい。そしてその炎は消える気配が全くない。年月を追うごとに火の勢いは弱くなっていると言うが、まだまだ消えるような気配はなかった。そしてそのガスクレーターの周りをゆっくりと一周したのだが、荒野で地面に凹凸はあるものの躓いて転ぶようなことは無い。見飽きるまで眺めて、夜の宿泊地の近くのキャンプへ向かった。

「地獄の門」と呼ばれるクレーターは荒野の中にポツンとあるため、その周りに道路はおろか街や人工物はない。ランドクルーザーで砂漠を突き抜けていった先にあるのだ。そのためホテルやバンガローもなくて、ユルタというテントが十数基建てられているのみだった。まだ作りかけのものも半分くらい。これからが観光客がやってくるシーズンなのだろう。そこが今宵の宿となる。トイレは外部の少し離れた所にあるにはあるが、風呂やシャワーは全くない。虫が多いと聞いていたのに、シーズン前のためかその日は殆ど現れなかった。

夕食はテントサイトのキャンプ基地のようなところで、焼き飯にお肉がのった料理とナンを4人でシェアした。現地の野菜のスープも出される。美味しさは程々で食欲をそそるようなものでもないが、なんとかお腹いっぱいになる。

▲夜とは違う地獄の門

▲キャンプへの直線の近道

▲キャンプ基地

▲組立中のユルタ

腹の調子が悪かったので控えめに済ます。食事のテーブルが屋外に屋根付き程度のところだったので、ハリネズミが食事中足下をうろうろしてかわいらしかった。食後T氏は15分くらい元来た道を徒歩でクレーターまで見にいったが、私は十分に見たという思いがあったので、翌朝見に行くことにしてユルタというテントで就寝した。内部はソーラー電源による明かりが消せずに朝まで明るかったのだが、アイマスクでなんとかやり過ごす。

ユルタの中にはベッドのような台とテントの上部から吊された蚊帳があり、その台の上で寝袋に入って寝た。朝方冷え込むという事前情報に心配して準備もしっかりしていたが、それ程心配することも結果的にはなかった。まあ快適に眠ることが出来た。

4 ウズベキスタンへ再び帰る

4月30日(日)午前6時起床。キャンプサイトでの朝食は午前7時からだったので、身の回りの荷物を片付けてクレーターまで行ってみる。場合によっては朝食に間に合わないかとも心配したが、直線に歩いてクレーターまでは意外と近かった。車は砂漠を少し遠回りしたのかもしれない。周囲の状況や景色もはっきりと確認することが出来て、クレーターがどのような周辺状況の中にあるのかがよくわかる。遠くには車を止めて、一晩中眺めていた人もいたようだ。朝焼けで砂漠全体が赤く染まった。

明るくなったとはいえ、クレーターまで着いてみると相変わらず穴の中や断崖の壁から炎が燃えさかっ

▲ユルタ全景と4人組

ているのがわかる。何かしら特有の匂いも感じた。日の当たっているところと断崖の影の部分では炎の存在感が違って見えた。熱風は風向きによって自分にもろに降りかかってきた。そのクレーターの写真を撮りながら柵の周りを一周して、ここに来たという証拠写真を何枚か撮ってキャンプサイトへ帰った。丁度午前７時に帰り着いたので、そのまま朝食をいただいてユルタに帰り、出発の支度をする。

▲野生ラクダの群れ　▲クトルグ・ティムール・ミナレット

出発は午前８時で、昨日飛行機の遅延で見学できなかったトルクメニスタンの遺跡を見るというので少し急かされた。その後は元来た砂漠の中を軍隊が造った幹線道路まで走り、そこからは凸凹を避けながらダートをぶっ飛ばしてウズベキスタンとの国境へ向かう。途中野生の駱駝たちを沢山見かけた。トルクメニスタンの駱駝は毛の色が焦げ茶色で、いつも目にするものよりも少し小型の一瘤駱駝だ。

その後、さらに悪路を１時間程走り、クフナ・ウルゲンチの遺跡を見学した。日曜日とあって小中学生たちが多く見学に来ており、安産祈願の小さな木があって、そこを７回まわる、という地元の風習を忠実にやっている姿に民族の誠実さを感じた。また14世紀に造られ中央アジアで最も高いクトルグ・ティムール・ミナレット（高さ64m）や12人の側室と共に眠る12角形の屋根を持つ、12世紀の支配者イル・アルスラン廟などの遺跡を見学。ここは古代ホレムズの都であったがモンゴル軍やティムールに破壊され、修復されたものだった。

ミナレットの足下まで行ってガイドの説明を聞いていると、中学生たちの女子グループが我々に一緒に写真を撮ってほしい、と話しかけてきた。気軽にＯＫしてスマホに収まると、次はツーショットを撮りたいという。それもＯＫしたのだが、その後次から次へと写真のリクエストが続いた。一通り撮影会

▲イル・アルスラン廟

▲現地中学生たちとの記念写真

を終え、別の所へ移動していると今度は少年が一緒に写真をと言ってきた。てっきり一枚だけかと思っていたら、そこから列が出来て次から次へとスマホでの記念撮影が続いて、時間が遅れるとガイドが怒り出す程だった。それがさらにエスカレートして、おばあちゃんまで一緒に記念写真をと寄ってきて、挙げ句の果てにはおじさんまで一緒に撮りたいと言い出す始末。ちょっとしたスター気分ではあったが、それからも見学場所を移動する度に写真のリクエストが続いた。

見学はこの遺跡だけで、トルクメニスタンのイミグレを抜けてウズベキスタンのヒヴァまでいかなければならない。この国境を抜けるのは正直重荷だ。トルクメニスタンが鎖国のような国なので外国人が珍しいのだろうが、国を開放してない分、国土の発展が遅れているように感じた。入出国はとても厳しい。手荷物の申告書もまた青のボールペンで書かなければならない。青のボールペンなんて持ってないし、黒でもいいではないか。それが厳粛にダメなのがトルクメニスタンの国を表している。４人で何とか協力して国境を越えウズベキスタンに帰ってくることが出来、それぞれのホテルまでドライバーに送ってもらった。ウズベキスタンに入ると、街の中には緑が増え道路も凸凹がなくなり、信号機も少しあった。

１時間半程走ってヒヴァの世界遺産の旧市街地にあるオリエントホテルに到着。Ｍさんとはここでお別れとなった。実は疲れのためかぼっとして車にバックを忘れてしまい一時パニックになったが、そのうち返ってくることを信じて夕食を食べに出た。帰ってみるとＭさんがドライバーに私に届けるよう強く言ってくれたそうで、無事にフロントまで届けてあった。

【後編に続く】

▲イスラム教の廟　▲ヒヴァのオリエントホテル

第65回建築士会全国大会 しずおか大会に参加して

総務・企画委員会　委員長　井上　竜治

開 催 日：令和5年10月27日(金)
大会会場：静岡グランシップ（静岡県静岡市）
参 加 者：愛媛県より65名
（うち本会企画ツアー参加者30名）

10月26日(木)～10月28日(土)「歴史と文化の継承」～ローカルに生きる～を大会テーマに全国大会(しずおか大会)に30名で笑顔あふれる3日間を過ごしました。

総務・企画委員会として全国大会のツアーを計画しなくてはいけない立場で、静岡といえば誰しも「富士山！」を連想すると思い、「そうだ、富士山の雄大な景色を見ながら、ゴルフをしたら気持ちいいだろうな～！」という思いが湧き、サブテーマとして「富士山見ながらゴルフを楽しもう！」で、静岡観光組とゴルフ組の二つの選べるプランを計画しました。

そして一路、東京羽田空港へ飛び、そこからバスで南下する旅路です。途中、昼食で横浜中華街の中華料理に舌鼓を打ち、いざ静岡へ向かいます。静岡へ近づくと車窓から富士山が姿を現しました。静岡に来たことの実感が湧き少し興奮して、スマホで思わず撮影しました。

▲車窓からの富士山

私のイメージしていたのは、すそ野まで一望できる雄大な姿でしたが、少し違っていました。ガイドさんの話によると、「富士山は、女性の神様で恥ずかしがり屋なので、なかなか姿を見せてくれません」ということで、全く姿を見ることなく帰る残念な観光客の方もいるらしいとのこと。見られただけでもラッキーだったのかもしれません。

その夜は前夜祭で、徳川慶善が大政奉還後、約20年居住した敷地後の「浮月楼」で懇親を深めました。

そして2日目はいよいよ本番で、観光組とゴルフ組、セッション参加組に分かれた後、静岡グランシップ会場の全国大会本番に参加しました。

▲富士見ヶ丘カントリー倶楽部で記念撮影

私はゴルフ組で、富士見ヶ丘カントリー倶楽部でのプレーを楽しみ、結果、なんと優勝まで頂きました。ありがとうございました。（ダブルペリアのおかげですが！）

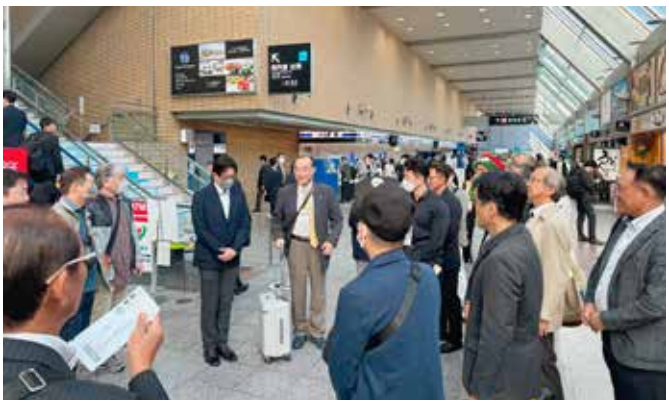
▲唯一、姿を現しました

大会式典では、白石公成さん、佐々木幸子さん、そして私の3名が日本建築士会連合会会長表彰を頂くことができました。これも皆様のご協力があってのことだと、感謝しています。ありがとうございます。これからも、愛媛県建築士会の発展に微力ではありますが、尽力していきます。

▲しずおか大会オープニング

最後に、来年開催県の鹿児島県から総勢120名近くの会員が出席して、来県をアピールして盛大に大会を締めくくりました。来年は桜島目掛けてナイスショットできることを楽しみにしています。

今年は参加者全員、トラブルもなく無事終え、親睦を深めることができたことに感謝しています。



▲８：30集合、これから静岡へ

▲来年の鹿児島大会アピール（鹿児島士会の皆さん）

▲三保の松原（後ろに富士山）

▲浮月楼の中庭にて

▲久能山東照宮

▲伊予支部・四国中央支部と大会会場前で

▲帰路の途中、沼津御用邸で記念撮影

▲有名なおでん街へ

喜木の危機、清水長三郎家について

愛媛県ヘリテージマネージャー講師　岡崎　直司

立地場所と歴史背景

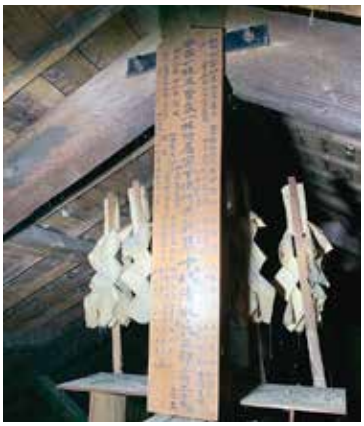
佐田岬半島の付け根辺りに八幡浜市保内町喜木という集落がある。この辺りは、江戸期から牛市や木蝋生産で栄えた物資集散地。喜木川の中流域が大きく蛇行し、そのまま抱かれるようにしてある街区で、その中ほどR197号の旧街道に面して、この清水長三郎家（寿酒造）がある。元々は組頭の家系で九代は中岡長三郎を名乗り、大正末に造り酒屋を創業する際に、十代清水長三郎となったようだ。３年前に十二代芳郎氏が物故され、しばらくして空き家となっていた。

▲清水家正面景

新築工事費帳

今回の調査に際し、ご親族の了解が得られた幸いに加え、もう一つ当時の「新築工事費帳」という得難い情報を入手出来た事も特筆すべき出来事だった。それは、260頁にも及ぶ和綴じの記録簿で、設計仕様書とも言うべき詳細な内容に驚かされた。大正15年１月から記載されており、中ほどの記載には「計壱万三千余円トシテ棟札ニ記入シテ棟木ニ張付ス」との朱書があった。

▲新築工事費帳



▲棟札

棟札

そうして調査時に屋根裏で発見されたのが、この棟札だった。それによれば、「本家一棟及釜家一棟附属廊下便所共新築十代清水長三郎于時五十歳建立」とあり、昭和弐年四月十二日着手、同年五月二十一日上棟式、昭和三年十二月竣成（1928年）、従来建物自然破壊之為改築との墨書。また、大工棟梁請負が上甲定治、作事棟梁松田藤治郎、他にも11名の名があり、地形築並二埋立請負外畳建具悉皆として谷口権太郎の名、石工・左官の名もある。記載人数23名、外数人となっている。工事費帳に朱書記載された工事費は「本家分瓦代除外総工費壱万三千余円」とあった。まさにタイムカプセル。この建物に関わる時代、人、状況というものがこれ程丁寧に書き込まれた棟札も珍しい。しかも不思議なことに、表裏に同様な記載があり、下書きを書き直したのか、あるいは木表と木裏の関係で改めたのか、興味深い。

▲委員会での調査状況

建物の概要

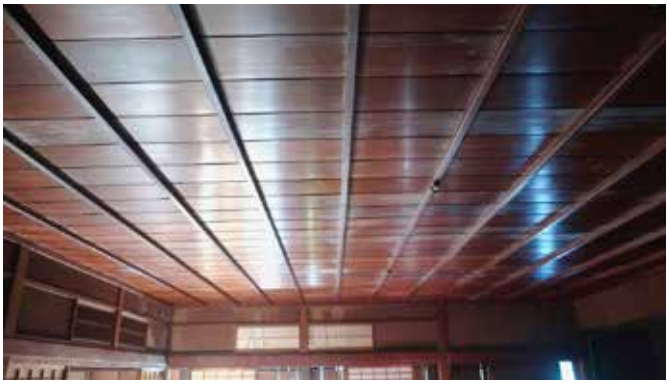
平入総二階建て切妻屋根の主屋は、間口７間、奥行き５間の商家建築で、昭和３年12月に竣成（棟札より）している。店土間を主とする道路に面した側は、全面が引き違いのガラス戸で構成されており、内部が明るい。レトロな意匠ガラスを使用した両引きガラス戸を開けて店土間の中に入ると、まず右手に欅の正副大黒柱（28㎝、20㎝）が目につき、その二本に囲まれてカウンターがある。ただし内側に残る立派な桜材の框（かまち）から判断して、この部分は当初は店框としての座があり、後に事務所形式のカウンターに改変したものかと思われる。大黒柱の左頭上には明治廿年の墨書が入った祈祷札が箱に納められ祀られていて、蓋を開けると古紙と寛永通宝が12枚確認された。

▲店土間カウンター

店土間全体は根太天井までの空間が高く(3.4m)、造り酒屋としての十分なゆとりが感じられる。一階は、右手に5.5畳間、続いて6畳、8畳とつながり、右奥に浴室、トイレの配置となっている。

圧巻は二階、カウンター背面から左に階段を上がり、6畳と10畳の部屋と納戸があり、中廊下を挟んで北側に大座敷がある。何とこれが24畳敷（4間×3間）の広さがあり、書院の欄間や障子、床の間の用材など、贅を凝らした作り込みが見られる。長押も棹縁も4間の長さを誇り、これだけの長尺な材が入手できた当時の資源の豊かさと技術の確かさに驚かされる。そんなサイズだから、中廊下の板材は長いもので4間半が認められる。

▲二階大座敷　床の間



▲二階座敷　棹縁天井

▲書院欄間と障子組格子

用材の樹種については不明なものも多いが、床框や書院の側板の材は桑かと思われ、違い棚や床板についても今後の解明が待たれる。階段は座敷の北隅にも設けられ、動線に利便性が図られている。

一方、二階の座敷書院から続く付属棟側には、客用トイレや化粧部屋と思われる設えもあり、造り酒屋としての接待空間が配置されている。洗面所の白タイルや人造研ぎ出しの手洗いなど、左官技術も見どころと思われる。階下中庭側にも外置きの手洗いがあり、アカンサスをあしらった擬洋風の左官装飾が目を引く。その背面中央に配した分銅の装飾と、二階座敷床の間にある朕潜りにも同様な形が見られ、何かの理由があるかも知れない。清水家の家紋は“抱き茗荷”なので、分銅のマークが何を意味するのか気になる所。

▲屋根裏の洋小屋

造り酒屋としての付帯施設

居宅兼店舗部分の正面左奥には、店土間との境に細格子の大きな仕切戸4枚で区切られた炊事場（釜家）が設けられている。

そこから裏へ出ると、左手（東側）に麹室の付帯した貯蔵庫が傷みながらも残っているが、周囲をかつて廻らせるようにあった試験室、検査室を下屋に配した仕込庫と西側の精米所物置は、既に平成の頃に解体されて今は無い。居宅の西南隅から南へ延びる形で廊下と便所棟があり、寄棟の小屋根には飾り瓦が三基（恵比寿、大黒、寿老人）。その構成で小さな中庭も設けられ、擬洋風洗い出しの手水もそこに置かれている。

一方、玄関引き戸に使用されているレトロな意匠の板ガラスは、近代和風の時代相をよく表している。

▲離れとそれをつなぐ渡り廊下

▲離れの棟飾り　恵比寿と大黒

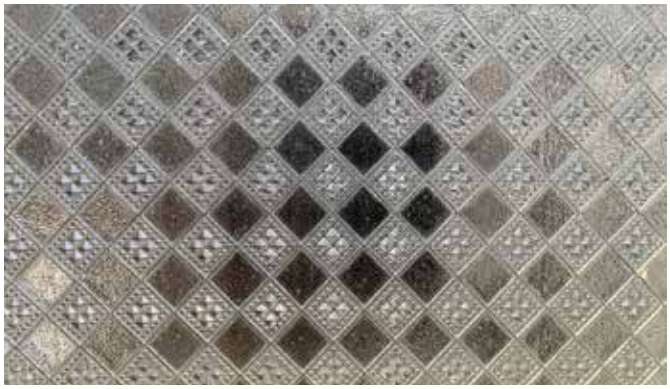
▲棟飾り　寿老人

▲中庭の手水（分銅の紋）

▲炊事場（釜屋）と貯蔵庫

▲西側の背戸（小道）から見る青石の長石　礎石として使用されている

▲正面玄関（店土間）のガラス建具



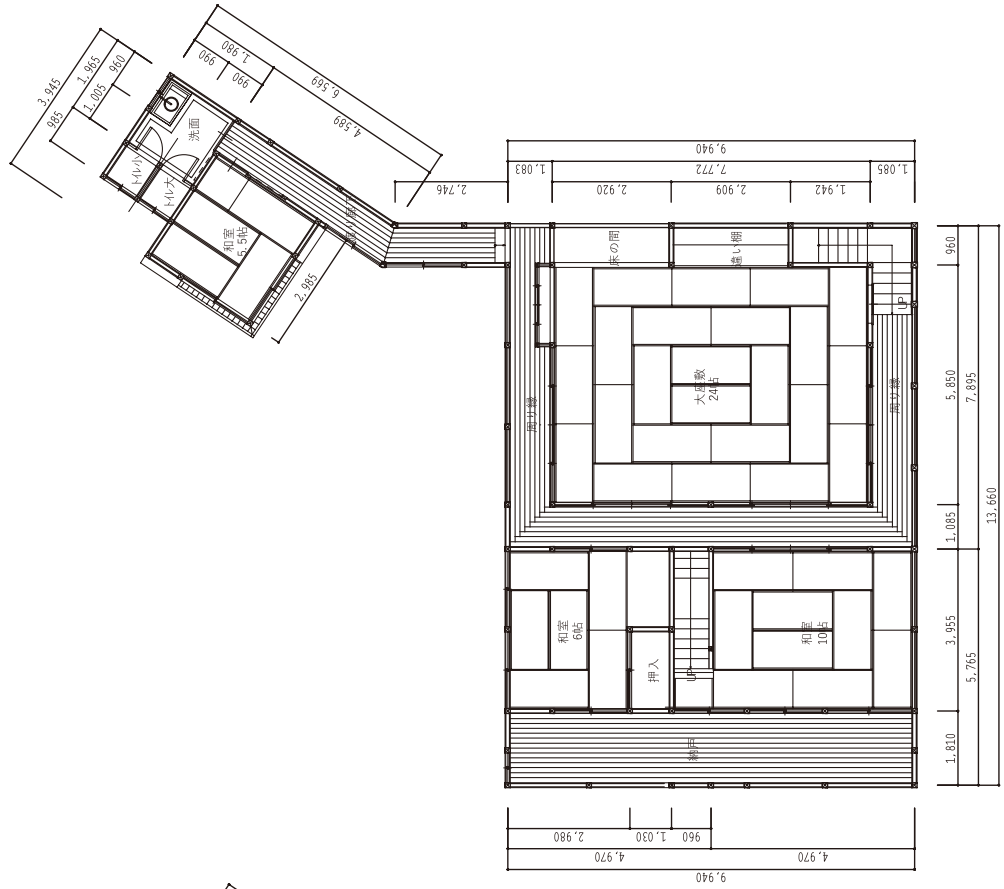
▲レトロな板ガラス

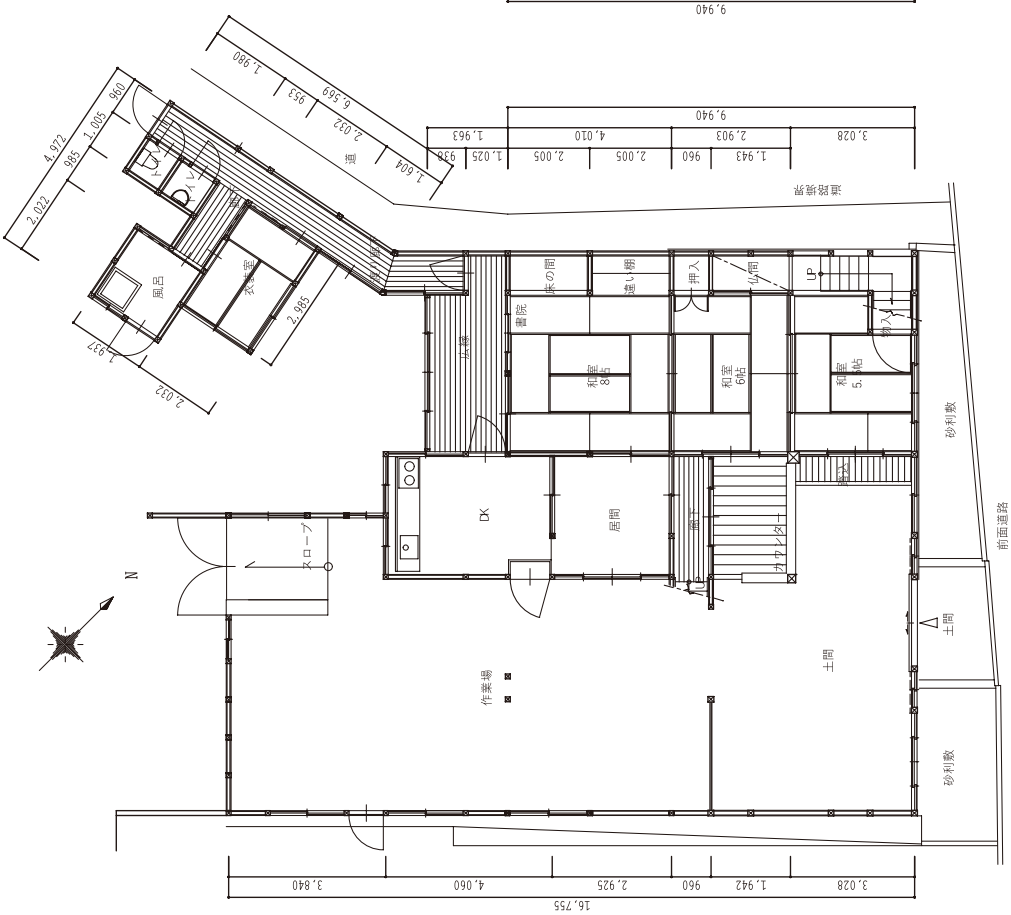
まとめ

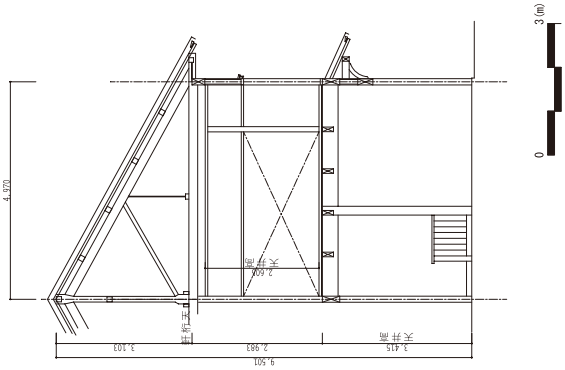
何れにしても、大正期から昭和にかけて国内の大工技術がある意味最高レベルに充実していたであろう時期に、経済の裏付けがあり職人と用材の妙が合致した中で出現した民家として、諸事情の中解体方向で話が進んでいることは残念でならない。せめてものこと、所有者理解を前提に多くの方のご尽力で、地方における近代和風の建築記録が残せる事に感謝したい。

▲２階大座敷にて記念撮影

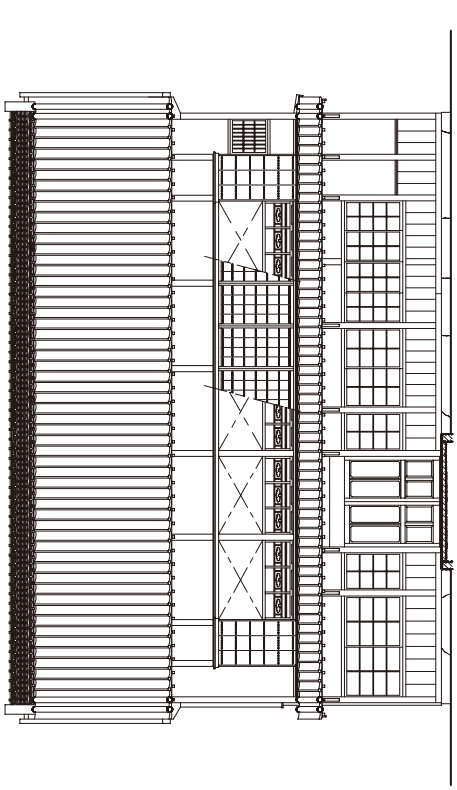
令和５年10月１日調査
調査員：岡崎直司（HM講師）
文化財まちづくり委員　峰岡秀和・久保孝・曽我部準・菅野隆次・花岡直樹・遠藤禎誌・中山百合子・眞田井良子


2階平面図
0
5(m)
和室
6畳
押入
UP
和室
10畳
縁側
南ひさし
大広間数
24畳
床の間
違い棚
和室
5.5畳
トイレ
洗面
9,940
13,660

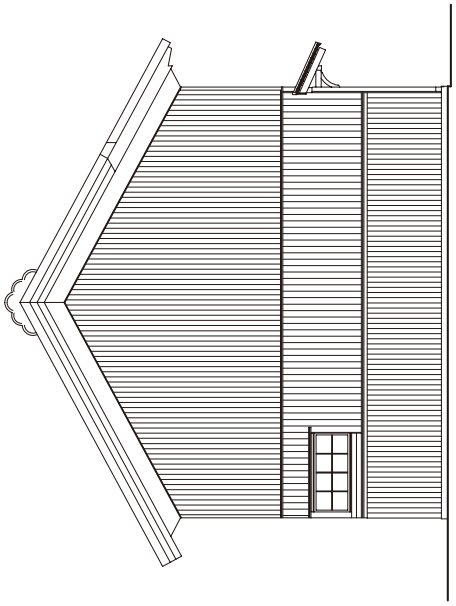

1階平面図
N
道路境界
通
玄関
玄ロープ
DK
居間
廊下
カウンター
土間
作業場
書院
床の間
違い棚
押入
仏間
UP
和室
8畳
和室
6畳
和室
5.5畳
浴室
風呂
洗面
トイレ
砂利敷
前面道路
16,755
9,940



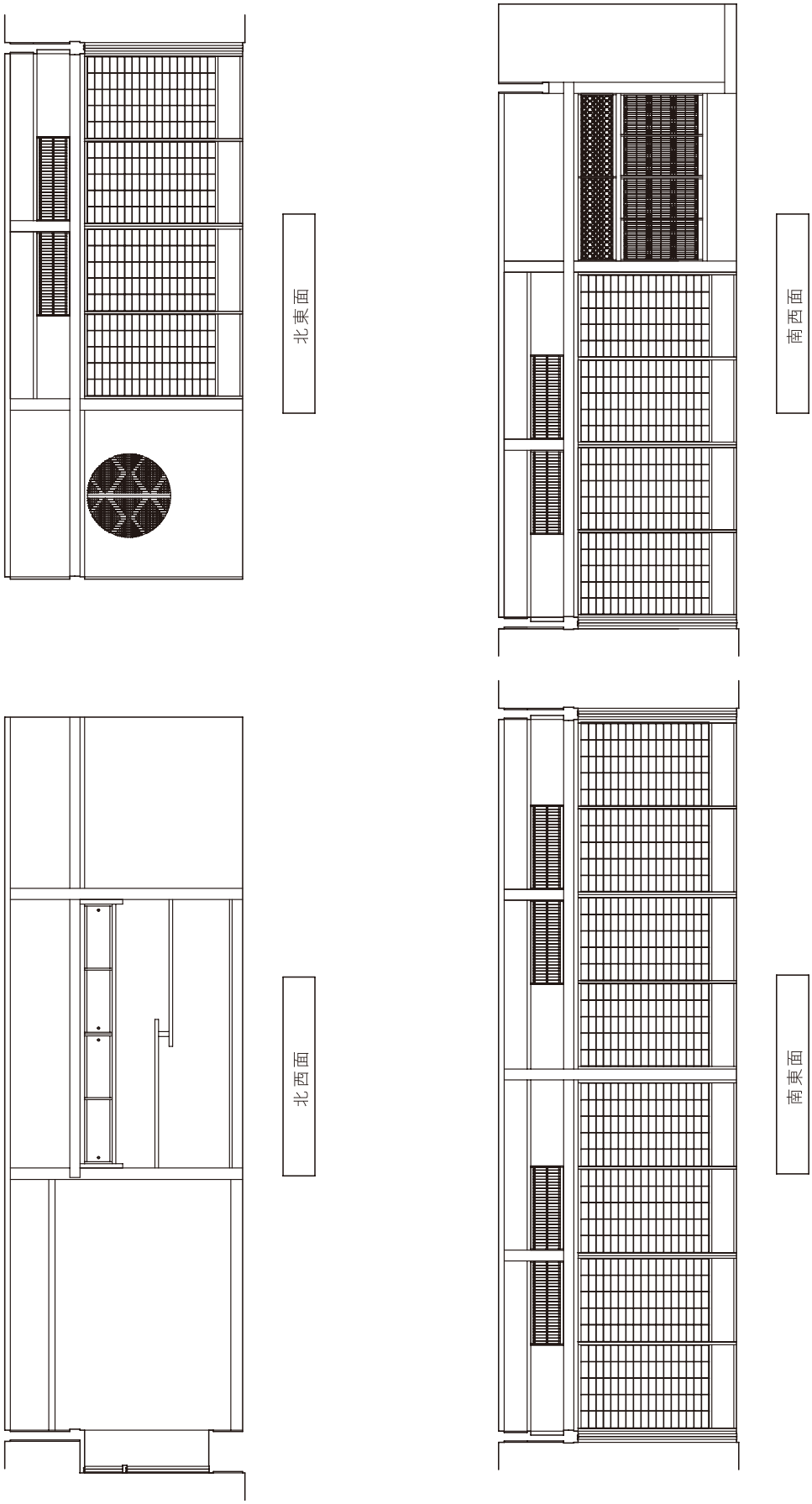
南西正面断面図



北立面図



東立面図



大座敷　展開図

令和５年度中四国若手建築志（士）交流会ｉｎ島根報告

青年委員会　副委員長　武智 良太

開 催 日：令和５年９月23日（土）～24日（日）
開催場所：北の原キャンプ場、石見銀山他（島根県大田）
参 加 者：愛媛から３名参加（遠藤、武智、政石）

９月23～24日に島根にて行われた、中四国若手建築志（士）交流会in島根に参加させていただきました。

初日は三瓶山登山と、さんべ縄文の森ミュージアムを見学。天候にも恵まれ、山頂から臨む景色は気持ちの良いものでした。

▲ミニ登山コースのメンバーと記念撮影

ちなみに登山には２つのコースがあり、私と遠藤さんは太平山を登る１時間のミニ登山コースで、展望台へ到着後はリフトに乗って下山。もうひとつの登山コースは男三瓶山を登る３時間３０分のガチ登山に政石さんが参加されました。強い！

ミニ登山の後は、さんべ縄文の森ミュージアムを見学。

▲埋没林の展示

約四千年前の縄文時代の三瓶火山の噴火により埋もれた杉がそのままの状態で保存されているとのことですが、その大きさに圧倒されます。

夜はキャンプ場にてバーベキューが行われました。美味しい地の食材と各県から持ち寄ったお酒をいただきながら、中四国９県の皆様と砕けた意見交換を行うことが出来ました。

▲北の原キャンプ場でBBQ

ところでバーベキューの際に何の気なしに座った席がどうやら風下だったらしく、美味しいお酒と料理に加えて煙もしっかりいただきました。煙は男前の方に寄ってくるという言い伝え、あれ多分嘘です。

宿泊ケビンでの合同の二次会もあり、他県の皆様との親睦も深まりました。

▲熊谷家住宅

２日目は町並み保存地区である石見銀山の町並み散策。歴史を感じる建築物の内外を案内していただきました。この２日間は、島根県建築士会の皆様のご尽力により、貴重な体験をさせていただきました。

また次の機会にも是非参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

そして来年は、若手建築志（士）交流会ｉｎ愛媛です。

青年委員会主催「支部対抗ソフトバレーボール大会」

開催日：令和5年11月4日(土)
会　場：丹原体育館（西条市丹原町）
参加者：89名（12チーム）
順　位：優勝 西条A、2位 宇和島、3位 松山B、
4位 松山A、5位 今治、6位 新居浜
7位 伊予、8位 事務所協会、9位 西条B
10位 松山ERI、11位 松山C
12位 四国中央

優勝報告　西条支部　西条A　河上　正也

11月4日(土)青年委員会主催「支部対抗ソフトバレーボール大会」が丹原体育館で開催されました。12チーム参加で予選リーグは3チームずつで行い、その後、決勝トーナメントを戦いました。

昨年は仕事で参加できず結果は散々(3位)だったと聞きました。今年は是非とも参加して優勝旗を奪還するぞと意気込んで参加しました。

無事開会式も終わり試合準備にかかるためジャージを脱ごうとしたら短パンを履いていません。膝あても忘れています。地元開催だったのですぐに自宅に取りに帰って間に合いましたが、意気込みが空回りしてしまいました。

初戦は松山Cさんです。優勝後に今日の試合経過を振り返れば一番危なかった試合でした。最初の試合で頭も体も全然動きません。長身のエースもカチンコチンです。時間が経つにつれ少しずついつもの動きを取り戻し、逆転勝ちで初戦勝利。その後も決勝戦を含めて前半不調、後半逆転勝ちが多かったと思います。

今年の勝因は、チーム初参加の女神がジャンケンに全勝したことにありました、昨年はできなかった祝勝会も行い来年に向けて練習する約束をしました。

今回はソフトバレー大会20回目の節目と聞きました。私も当初から参加しており過去を思い返せば懐かしい姿が浮かびます。濃紺Tシャツに黄色背番号「14」の伊予チーム、真っ赤なTシャツに日の丸エンブレムの四国中央チーム、青いTシャツ背中に独特文字の「しゅうそう」で西条？ですが、そろそろ「さいじょう」に変えないとどこの支部かわからなくなりそうです。

今後も長くこの大会を続けるためにルールの変更を希望します。高齢者や女性が活躍できるように「レクレーションバレーボール混合」のルールを基本として、この大会独自のルールを追加する形（男性は前衛からの攻撃やブロックはできません、後衛の時だけ攻撃できる、女性は今まで通りのようなもの）を一度ご検討ください。

最後に、初戦から決勝戦まで観戦・応援してくださった尾藤会長・花岡副会長、写真撮影して頂いた大西元局長、準備頂いた青年委員の皆様、大変お世話になりました。ご参加の各支部の皆様お疲れ様でした。

副賞でいただいた『ひめの凛』美味しかった――。事務所協会様、ありがとうございました。

▲西条Aチームの女神へ優勝旗授与

最下位報告

四国中央支部　遠藤　彰騎

今回は昨年参加していた支部メンバーの半数以上が参加できずチーム編成に苦労しましたが、なんとか6人確保して参加することができました。

練習を3回ほど設定しましたが、チームメンバー6人のなかで3回とも練習に参加できたのは私1人だけでした。ほかのメンバーは2回参加が1人、1回だけ参加が4人という状態。しかも今回はバレー経験者が1人もおらず、練習の様子を見ても「最下位の可能性が高い」と感じざるを得ませんでした。

会場に到着し開会式の後、組み合わせのくじ引きをして予選リーグ。宇和島支部さんと対戦し敗戦。今治支部さんと対戦し4点差で惜敗。「やはり勝てないか」と思いつつ臨んだ順位決定リーグは、ＥＲＩ松山チームさんと対戦して敗戦。

最下位決定戦では松山Cチームさんと対戦しました。尾藤会長と花岡副会長がそれぞれの支部チームに、飛び入り参加してくれました。

四国中央支部チームは飛び入り参加の尾藤会長が一番上手いという有様で、当然勝てるはずもなく、(13－26)のダブルスコアで敗戦。結局一度も勝てないままダントツの最下位で大会を終えることとなりました。正直、こういう結果もあり得ると思っておりましたので、悔しい気持ちもあまりありませんでした。

四国中央に帰り支部メンバーと「反省会」という名の懇親会を行い、来年はしっかり練習してから参加しようと話し合うとともに、バレー経験のある方に参加してもらおうという結論になりました。

今回のソフトバレーボール大会は、東予地区の青年委員として大会運営にも携わっていたので、大きな怪我がなく大会を終えることができたことを、うれしく思っています。

最後に会場の手配など大会運営に尽力された青年委員の方々、事務局の方々、参加者の皆様、ありがとうございました。

▲(左)花岡副会長と（右)尾藤会長が飛び入り参加

◀選手宣誓
白石さん、
武智さん、
中尾さん

▼閉会式

▼全員で記念撮影

女性委員会主催 紙のまち建物見学会

女性委員会　委員　加地　彩子

開 催 日：令和5年11月12日(日)
見学場所：四国中央市内（古今荘他）
参 加 者：11名

11月12日、日本一の紙のまち四国中央市にて、建物見学会を開催しました。

午前中は「魅力ある和の空間ガイドブック」に紹介されている古今荘を見学しました。花岡さんが案内してくれたため、細部へのこだわり、特に使用している木材へのこだわりを知ることができました。畳に座って庭を眺めていると、この空間の心地よさがより感じられ、見学時間の１時間はあっという間！　開催日は天候が優れず雨でしたが、雨に濡れた庭は趣があり、魅力ある和の空間をさらに堪能できました。

▲古今荘の見学の様子　花岡さんによる解説

▲古今荘の室内

▲興味をそそられる釘隠し

午後からは令和３年に完成したユニ・チャーム令和共振館を見学しました。創業者生誕の地に60周年を記念して建設された迎賓館で、外観からも優雅さが伝わってきます。室内も期待を裏切らない内装で、華やかで上品なインテリアはカタログの切り抜きを見ているようでした。その中でも勉強になったのが照明計画です。間接照明を多用し、その部屋のシーンに合ったものをセレクトされているのが見受けられました。じっくりと一企業の現役の建物を見ることはなかなかないため、貴重な機会でした。

▲ユニ・チャーム令和共振館　エントランス

最後は紙のまち資料館にて、手すき和紙体験！和紙のハガキを２枚作りました。手順の説明を先に受けてから、一人ずつ和紙をすきます。色付けや和紙へのトッピングが悩みながらも楽しかったです。

▲手すき和紙体験　まずはお手本見学

▲完成したハガキをもって記念撮影

雨天のなか県内各地から四国中央市に来てくれて、ありがとうございました。この見学会を通して地元にも素晴らしい建築物があることを知り、女性委員会のメンバーと親睦を深められ、私にとっては本当に充実した良い１日でした。

建築士の日の行事

～ぬりえワークショップ＆無料住宅相談会～

四国中央支部　遠藤　彰騎

開 催 日：令和５年７月30日(日)
開催場所：四国中央市川之江商店街アーケード内
スタッフ：四国中央支部会員 ６名

四国中央支部では、四国中央市の夏のイベントである四国中央紙まつりにて、ブースを出展いたしました。４年ぶりの通常開催となった今回は、ぬりえワークショップと無料住宅相談会を行いました。

ぬりえワークショップには多くの子供たちが立ち寄って思い思いにぬり絵を楽しんでくれました。

▲支部事務局員のご家族も参加してくれました

子供たちがぬり絵をしている間に、保護者の方々に四国中央市の木造住宅耐震補強補助事業とブロック塀等安全対策事業のリーフレット等を配布しました。

また、無料住宅相談会にも住宅の窓の断熱についての相談が寄せられるなど、好評をいただきました。
参加してくださった方々に感謝するとともに、来年以降も事業を継続していきたいと思います。

▲真剣にぬりえをする子供たちと見守る保護者の方々

ぬりえに参加いただいた子供達　27人
住宅相談者　１人

～街頭アピール団扇配り・建築クイズ・熊本被災地写真展～

八幡浜支部　安藤　嘉晃

開 催 日：令和５年８月５日(土)
開催場補：八幡浜新町アーケード内
スタッフ：八幡浜支部会員 ３名、一般 ２名

八幡浜支部は「建築士の日」を街頭にてアピールするため、ロゴ入りの団扇を配り、建築クイズやアーテックブロックや、熊本被災地写真展、建築無料相談会等いろいろな催し物を企画し、商店街で行われる土曜夜市に併せて開催しました。

建築クイズは昨年度に引き続きですが、クイズをバージョンアップして大人も悩むようなクイズを作成し、子供も大人も楽しんでいだだけました。

またアーテックブロックは、コロナウイルスの感染拡大もあり昨年度までは控えておりましたが、今年は小まめに消毒を行いながら実施し、たくさんの子供たちが夢中になって遊んでくれていました。

▲アーテックブロックに夢中

コロナウイルス感染症も５類に移行し、商店街全体も私が参加した中で一番、というぐらいに賑わっておりました。来年度は是非マスクを脱いで、昔のように開催できることを願っております。

建築士会での活動

松山支部　大内　雄志

この度、松山支部の東さんからバトンを受け取りました、同じく松山支部の大内です。

私はちょうど10年前、会社の転勤がきっかけで東京から愛媛県へ引っ越してきました。妻の実家が愛媛県ということ以外は何も縁がなく、いきなり異国に放り出されたような気分だったことを鮮明に記憶しています。

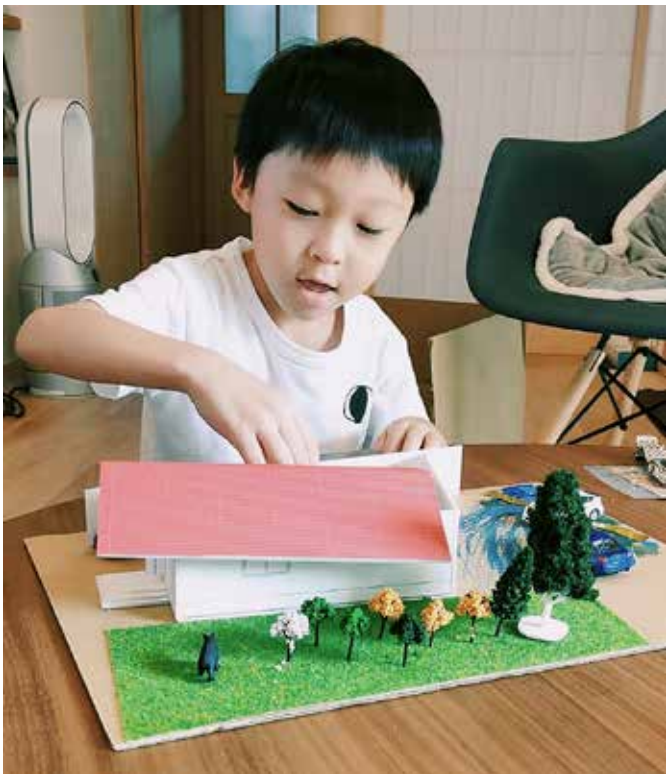
そんな中、愛媛建築住宅センターの井上社長に建築士会の集まりに参加するお誘いをいただき、少しずつ支部の青年女性委員会を中心とした活動に参加するようになりました。お仕事でのお付き合いある方ばかりかと、当時は半ばそういった仕事の延長線のような気持ちで参加していた記憶があります。ただ参加するイベントの一つ一つを見ていくと、建築というジャンルを問わず、たくさんの業種の方々が分け隔てなく参加していて、特に建築士会の特性上、会社や組織、役職などを超えた個人のつながりの輪で、皆さんが楽しく活動していることに驚きました。

いろんなイベントに参加しましたが、一番心に残っているのはやはり「建築巡礼」です。初めて参加した大きなイベントで、一般の方々と一緒に松山市内の建築物を巡るバスツアーイベントは、愛媛県にきたばかりの自分にはすべてが目新しく、「こんな歴史がある建物なんだー」とか「そんなに貴重なものなの??」など、街を知らない自分は特にまた違った視点で参加でき、このイベントを通じて松山の地を学ぶことができました。

▲「建築巡礼」記念写真

そしてそんな思い入れのあるイベントをテーマに、全国大会（あきた大会）の地域実践活動発表者をさせていただけたことは自分にとって忘れることのできない、かけがえのない大きな思い出となりました。（この1年、他県の面識のない方から「おめでとう」とたくさんお声をかけていただきました。本当に影響が大きいんだなーと感じました。それと同じくらい「おなか大丈夫?」とも言われましたが……（汗）。

そして気が付けば40歳。30歳で移住してはや10年です。いつまた転勤になるのか?今度はどこに行くのか?とソワソワしながらも、いつしか子供ができ、手狭になった賃貸アパートに不満を漏らす妻のため自宅を構え、「次の転勤は単身赴任」と腹をくくって、この愛媛の地にどっぷりと腰を据えました……。息子ももうすぐ8歳。建築巡礼のイベントに代わり始まった、松山支部の新たな建築士の日のイベント「小学生を対象とした建築模型作り体験」に参加して以来、建築に興味が湧いたのか、ベッドで布団を使って自分の家を作って遊ぶことが多くなりました。そして建物を建てる人になるにはどうしたらいいか聞いてきます。



▲イベント後の息子

子供たちが少しでも建築に興味を持ってもらいたい、という思いでスタートした模型作り体験のイベントが成功していることを、一番身近な息子を通じて実感しています。これからもいろんな活動を通じて、建築士の役割、魅力を発信していきたいと思います。

次のけんちくの輪は、愛媛建築住宅センターの清水翔太さんへバトンパスします。全国大会で発表の補助をしてくれた苦労を共にした最高のパートナーです。翔ちゃん、よろしくお願いします！

伊礼先生に魅せられて

八幡浜支部　安藤　嘉晃

日頃よりお世話になっている杉山設計工房の杉山先生から原稿依頼の打診があり、杉山先生のやさしい語り口に対して、無碍に断ることも憚られ、バトンを受けさせていただくことにしました。

さて、何を書けばよいか決めかねておりましたが、自宅の設計をこの１年考えておりましたので、そのことについて書かかせていただきます。

子供が小学校に上がることをきっかけに、住んでいるアパートも手狭に感じ、そろそろ家でも建てようかということとなり、実家近くの両親の土地を譲ってもらい計画を進めることとなりました。

私自身役場に勤めており、戸建て住宅については手掛けたことがなく、また自信について全くと言っていいほどなかったため、ローンの半分を負担いただく嫁様の言われるがまま、ハウスメーカーの展示場を巡っておりました。しかし何か自分が求めるものと違う感じがあり、このまま進めていいものか、もやもやした気持ちが残っていました。

そんな時、ふらっと立ち寄った本屋で、美しい佇まいの家に目を奪われました。設計された方を確認すると、「伊礼智」と書かれていました。恥ずかしながら、その時まで無知な私は名前を存じ上げなかったのですが、書棚のあちこちで手掛られた住宅が掲載されており、住宅に携わる人であれば知らない人がいないくらいのお方なのだと、すぐに理解ができました。

どことなく懐かしさを感じる佇まい、周辺と調和した高さを抑えた外観、すっきりとした美しい納まり、光と影のコントラスト、景色を切り取ったような窓の納まり。すべてが計算されていて、決して奇を照らした建物でないのもかかわらず、また住宅という生活感を感じやすい用途でありながら、どの写真にも美しさを感じ、感動し、その日「伊礼智」と名の付く本を全て購入することにしました。そして帰り道、大学時代に抱いた自邸を設計したいという気持ちが、どういう訳か伊礼先生の作品に魅せられ、沸々と湧き上がっていました。

家に持ち帰ると、自分が設計したいという気持ちを嫁様に伝え、伊礼先生の本を見せ、こんな風にはならないけど、こんなふうに設計するよう頑張るからよろしくという思いを伝えました。住宅ローンの負担割合について条件を付けられ、いささかたじろぎましたが、やる気スイッチの入っていた私は、その条件を呑むことにしました。

それからというもの、童心に帰ったような気持ちで、購入した本を読み込みました。伊礼先生が出された本には、丸々一棟分の図面を掲載された本もあり、これらを参考に設計を進めることとしました。

▲「伊礼智」と名の付く本を全て購入

しかし、伊礼先生の本を読み込めば伊礼先生のような設計ができるかというと、当然ながらそんな甘いはなしではなく、あきらめの連続でした。特に我が家が準防火地域内ということで、伊礼先生の代名詞である格子戸＋片引き戸＋障子戸の３枚戸を設けたかったのですが、どうにも僕の技量では設けることが難しく、諦めたことが未だに引っかかっております。また、昨今は高気密高断熱の時代であり、そのあたりの知識も私は皆無に等しかったため、そちらも書籍を買いあさり、ＵＡ値0.５近辺までに抑えると、開放的な空間とした方が室内の温度差が均一になるということを知り（本当かどうかはわかりませんが）、それを信じプランに反映することとしました。

設計を進めてから１年以上の期間を有しましたが、３枚戸を諦めたこと以外は、今の自分のレベルでできることはやり切れたかなと感じております。

結果的には、伊礼先生の作品には到底及ぶものではなく、先生だったらこんなことしないだろうなあと思うところが多々ありますが、これだけ刺激をいただき、もう一度建築を好きにさせていただいた伊礼先生には、本当に感謝の気持ちしかありません。この場をお借りして、勝手ながらではありますが、感謝申し上げます。

そして最後に、設計の期間愚痴を言うことなく、仕事で疲れている中、休みの日に僕を気遣って、子供の面倒を見てくれた嫁様に、この場を借りて感謝の気持ちを伝えます。

「本当にありがとう。これからもよろしく。」
「そしてローンは折半で<〇>。」（小声）

令和5年度 秋の褒賞 石丸真智子さん、尾藤淳一さん

令和5年11月9日に黄綬褒章を受章されました。おめでとうございます。

専攻建築士（新規・更新）登録申請受付期間のお知らせ

受付期間：令和6年1月4日（木）～2月29（木）
新規は窓口のみの申請となります。（ＷＥＢ申請は出来ません。）

新規申請の方の用件：①建築士免許取得後5年以上の実務実績
②責任ある立場での実務実績3件以上
③2023年1月1日～2023年12月31日のＣＰＤ単位12単位以上

更新申請の方の要件：2019年1月1日～2023年12月31日に取得したＣＰＤ単位60単位以上または専攻建築士認定後10年を超える方で、定期講習または特別認定講習受講者

※専攻建築士の登録期間が切れてしまっている方も更新申請が可能です。

申請書や申請費用等詳しくは（公社）愛媛県建築士会ホームページでご確認下さい。

http://www.ehime-shikai.com/

書籍販売

※消費税10%

商　品　名	会員価格（税込）	一般価格（税込）
①民間（七会）連合協定工事請負契約約款（約款改正日R5.1月）	990円	1,100円
②民間（七会）小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款（約款改正日R5.2月）	841円	935円
③民間（七会）連合協定リフォーム工事請負契約約款（約款改正日R5.2月）	544円	605円
④民間（七会）連合協定マンション修繕工事請負契約約款（約款改正日R5.2月）	990円	1,100円
⑤四会連合協定建築設計・監理業務委託契約書（約款改正日R2.4月）	990円	1,320円
⑥四会連合協定建築設計・監理業務委託契約書（小規模向け）（約款改正日R2.4月）	880円	1,100円

会員（正会員、準会員、本会賛助会員）

ご注文用紙はＨＰの書籍販売にございます。

謹賀新年　2024年

株式会社 横田建設

代表取締役　横田　郁

〒791-8015 愛媛県松山市中央一丁目9番20号
TEL089-922-4181　FAX089-923-3843

家を守る　地球を守る　やさしいガラス

HASSHŌ

八松硝子建材㈱

代表取締役　佐々木　隆司

〒791-1102 愛媛県松山市来住町14-4
TEL089-975-3309　FAX089-975-3310
http://www.hassho.net

スタイロフォーム、各種断熱材

木野内化成産業 株式会社

取締役社長　篠崎　孝

〒790-0052 愛媛県松山市竹原町1丁目5-5
TEL089-941-9242　FAX089-932-7212
http://kinoutikasei.co.jp

建築確認、省エネ適判、住宅性能評価など

日本ERI株式会社

支店長　西川　達倫

松山支店 松山市三番町7-1-21 ジブラルタ生命松山ビル3F
TEL089-913-6311　FAX089-913-6353
https://www.j-eri.co.jp

1級・2級建築士試験のスクールなら

総合資格学院 松山校

学校長・統括支店長　山下　健司

〒790-0003 愛媛県松山市三番町7-13-13ミツネビルディング7F
TEL089-947-2611　FAX089-947-2622
http://www.shikaku.co.jp/guide/chugoku_shikoku/matsuyama/top.html

---

〝しあわせ・感動　プロデュース〟

株式会社 横内造園

代表取締役　横内　文行

〒799-0111 愛媛県四国中央市金生町下分309
TEL0896-56-2441　FAX0896-56-2437
https://yokouchi-zoen.com

株式会社 愛媛建築住宅センター

代表取締役　井上　竜治

〒790-0003 愛媛県松山市三番町4丁目4-7 松山建設会館3F
TEL089-931-3336　FAX089-931-3362
http://www.ehime-center.co.jp

一般社団法人 愛媛県中小建築業協会

会　長　佐々木　敬史

〒790-0878 愛媛県松山市勝山町2丁目3-1
TEL089-943-5525　FAX089-943-5545
https://hime-ken.com

株式会社 友清白蟻

代表取締役　山辺　利成

〒799-2654 愛媛県松山市内宮町513番地
TEL089-978-2630　FAX089-979-6212
https://tomokiyo.co.jp

有限会社 山口鉄筋

代表取締役　山口　勇人

〒791-8044 愛媛県松山市西垣生町350-1
TEL089-973-4031　FAX089-973-4036
https://www.yamaguchitekkin.com

㊔二宮工務店

株式会社 二宮工務店

取締役松山支社長　二宮　広明

〒790-0934 愛媛県松山市居相4-22-18
TEL089-956-2888 FAX089-956-2889
https://www.ninomiyakoumuten.com

創業40年の信頼と実績

有限会社 福田瓦工業

代表取締役　福田　大輔

〒791-8041 愛媛県松山市北吉田町1022番地1
TEL089-968-6118　FAX089-968-6119
https://fukuda-kawara.co.jp

私たちは(公社)愛媛県建築士会の賛助会員です。

謹賀新年　2024年

「安心と信頼」の地盤づくり
～Trust and Peace of Mind～
TOSHO
東昇技建株式会社
代表取締役　小泉　啓典
〒791-1113 愛媛県松山市森松町147-1
TEL089-970-6814　FAX089-970-6815
https://www.tosho-g.jp

人を育て、企業を育て、社会に貢献します。
トス愛媛 株式会社
代表取締役社長　村上　裕城
〒790-0925 愛媛県松山市鷹子町442番地1
TEL089-955-7733　FAX089-955-7734

愛媛県しろあり対策協会
会　長　友清　重孝
〒791-8001 愛媛県松山市平田町502番地
TEL089-979-6692　FAX089-979-6692
http://hakutaishikoku.com

人と自然の調和
BITOH
尾藤建設株式会社
代表取締役　尾藤　淳一
〒799-0101　四国中央市川之江町2250
TEL0896-58-2426　FAX0896-57-1563
https://bitoh.co.jp

在学中に二級建築士＋学士のW取得が可能！
学校法人 河原学園 **河原デザイン･アート専門学校**
校長　白石　隆保
〒790-0002　愛媛県松山市二番町1-12-2
TEL089-931-9111　FAX089-946-0074
https://idea.kawahara.ac.jp

四国化成
四国化成建材株式会社
四国営業部
〒764-0017　香川県仲多度郡多度津町西港町42
TEL0877-58-5211　FAX050-3606-6318
https://kenzai.shikoku.co.jp

ALSOK　ALways Security OK
愛媛綜合警備保障株式会社
代表取締役社長　阿部　克彦
〒790-0054 愛媛県松山市空港通二丁目6番27号
TEL089-971-2010　FAX089-974-0551
https://www.alsok-ehime.co.jp

マルマストリング
今治・松山・宇和島・大洲・西条・四国中央・多度津
TEL0898-32-5000㈹　FAX0898-31-5513

品質にこだわり仕事に誇りを
kiss　KOEKI INFORMATION SECRETARY SERVICE
コーエキ株式会社
代表取締役　明関　一博
〒790-0913 愛媛県松山市畑寺３丁目11-31
TEL 089-946-1141　FAX 089-932-8499
http;//kissjp.com

Nature for The Future
OONO ASSOCIATES
オオノ開發株式会社
〒791-0242 愛媛県松山市北梅本町甲184番地
TEL.089-976-1234 FAX.089-976-8700 https://www.oono-as.jp/

総合建設業
建
井原工業株式会社
代表取締役　井原　伸
〒799-0404 四国中央市三島宮川4丁目2番18号
TEL0896-24-4435　FAX0896-24-4030
http://www.iharakogyo.co.jp

屋根のことなら何でもご相談ください！
株式会社三州瓦センター松山
代表取締役　西村　壮平
〒791-3163 愛媛県伊予郡松前町大字徳丸1197-1
TEL089-909-6830　FAX089-909-6850
https://kawaracenter.jp

私たちは(公社)愛媛県建築士会の賛助会員です。

株式会社 岸之上工務店

代表取締役社長　岸之上　憲一

〒780-0033 高知県高知市西秦泉寺435番地1
TEL088-822-2222　FAX088-822-5833
https://www.kishinoue.co.jp

ダイヤアルミ 株式会社

代表取締役社長　酒井　才次

〒799-3111 愛媛県伊予市下吾川1873番地
TEL089-982-8810　FAX089-982-8815
http://www.daiyaalumi.co.jp

KANSAI PAINT 関西ペイント販売株式会社

丸亀営業所／〒763-8510 香川県丸亀市土器町北2丁目88
TEL0877-24-5484　FAX0877-24-4950
https://www.kansai.co.jp

有限会社 石丸ガス商会

代表取締役　石丸　泰弘

〒790-0004 愛媛県松山市大街道3丁目2番地41
TEL089-921-2505　FAX089-921-2405

新日本建設 株式会社

代表取締役　井上　秀明

〒791-0054 愛媛県松山市空港通三丁目9番3号
TEL089-971-0255　FAX089-971-0573
https://www.shinnihon.ehime.jp

自然を生かし未来へ繋ぐ

株式会社 宮田建設

代表取締役　奥田　賢司

〒798-0004 愛媛県宇和島市朝日町4-3-25
TEL0895-22-1567　FAX0895-25-0009
http://miyata-kensetsu.jp

株式会社 松山合板社

代表取締役　大野　健夫

〒790-0062 愛媛県松山市南江戸1丁目2番2号
TEL089-931-8268　FAX089-933-9274
http://www.matsugou.jp

AGORA 株式会社 国代耐火工業所 大阪支店

支店長　岩城　隆晴

〒541-0046 大阪府大阪市中央区平野町4-6-16
TEL06-6229-9246　FAX06-6229-9247
http://www.agorabrix.co.jp

オフィスの未来に、ちょっとソリューション。

アカマツ

アカマツ株式会社 松山本社／〒790-8533 松山市福音寺町235番地の1　TEL:089-975-1234　FAX:089-976-6364
営業所／宇和島・八幡浜・大洲・今治・西条・新居浜・四国中央・善通寺・高松・徳島・神戸・東京
www.akamatsu.co.jp

株式会社 寺尾建築設計事務所

代表取締役　寺尾　保仁

〒790-0011 愛媛県四国中央市金生町下分129-1
TEL0896-58-3003　FAX0896-58-3448

美しさとやすらぎを創造する…

フジワラ化学株式会社

代表取締役社長　赤岡　泰光

〒799-1342 愛媛県西条市大新田94
TEL0898-64-2421　FAX0898-64-4034
https://www.fujiwara-chemical.co.jp

私たちは(公社)愛媛県建築士会の賛助会員です。

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。
（尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。）

「いしづち」の次号の原稿締切日
令和6年　3月号（157号）　令和6年1月25日（木）

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。
※１ページ写真込みで2150文字（25文字×43行×横2段）のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。
写真は１ページ当たり３枚程度まで題名を付けて添付してください。
また宜しければ投稿者の写真（免許写真程度の顔写真）を添付してください。
会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。
（尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。）
この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にまで、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。

情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしています。
「いしづち」編集委員会（士会事務局内）宛　FAX 089−948−0061

編集後記

注目の麻布台ヒルズが11月24日ついにオープン！　私が３日後の27日に探索した話を致します。
麻布台ヒルズは、「緑に包まれ、人と人をつなぐ『広場』のような町」をコンセプトに「Green&Wellness」を体現した大規模な複合施設です。一般的には高さ約330mで、日本一の超高層ビルとなる森ＪＰタワーが注目されるかもしれませんが、訪れて魅力に感じたのは、ガーデンプラザなどの低層部の建築とランドスケープのデザインでした。このデザインは、ロンドンオリンピックの聖火台をデザインするなど数々の著名プロジェクトで知られる英国のトーマス・ヘザウィック氏率いるヘザウィック・スタジオが担当しています。デザインコンセプトが、街並み（ストリート）はみんなのもの、住みたい、行ってみたいと思う街は、豊かな人もそうでない人も平等に受け入れる街です。だから“ストリート・ファースト”で考えた、そうです。
多分、それを感じたのでしょう。凄く気持ちが良く受け入れられている感じがしました。
また、特徴的だったのは、街並みのデザインが無機質な感じが無く自然と融合しているように感じたことでした。低層部全体に広がっていく波打つデザイン、グニャグニャとした格子状のフレーム（ネットフレーム）が地下から地上まで、室内から室外まで伸びていました。ネットフレームは構造的には柱や梁の役割をしているのでしょうが、それが一つの世界樹の樹から芽を出し、四方八方に枝葉を伸ばして巨大化し、ついには麻布台ヒルズ全体を覆うように繋茂している。そんなイメージなのです。
そして、このネットフレームの外装材も素晴らしい。コンクリートの中に様々な色の小さな石粒を混ぜ込み、洗い出し仕上げをしているもので、ついつい触ってしまいます。多分、「手触り感」の大切さも設計に含まれているのではないかと思いました。実は、このネットフレームだけではなく、それ以外の外装や内装材も石や砂を多く使っており、見たことのない仕上げになっていました。どれもただの直線はなく植物の様に自然に曲がったり、丸みを帯びたりしており、ついつい触れながら歩いてしまいます。
私は個人的に触れることが好きなのですが、麻布台ヒルズに来た際には皆さんにも是非触れる楽しみを体感して貰いたいです。

〈いしづち〉2024/1
令和６年１月発行
発行人　**会長　尾藤淳一**
発行所　**公益社団法人　愛媛県建築士会**
〒790-0002　松山市二番町四丁目1-5　愛媛県建築士会館2F
TEL（089）945-6100　FAX（089）948-0061
http://www.ehime-shikai.com
印刷所　アマノ印刷有限会社
情報・広報委員会・広報委員
委 員 長／大平　将司　　副委員長／渡邉　道彦
編集委員／河合　優志　　西岡　亜有美　　西森　勉　　花岡　晶子